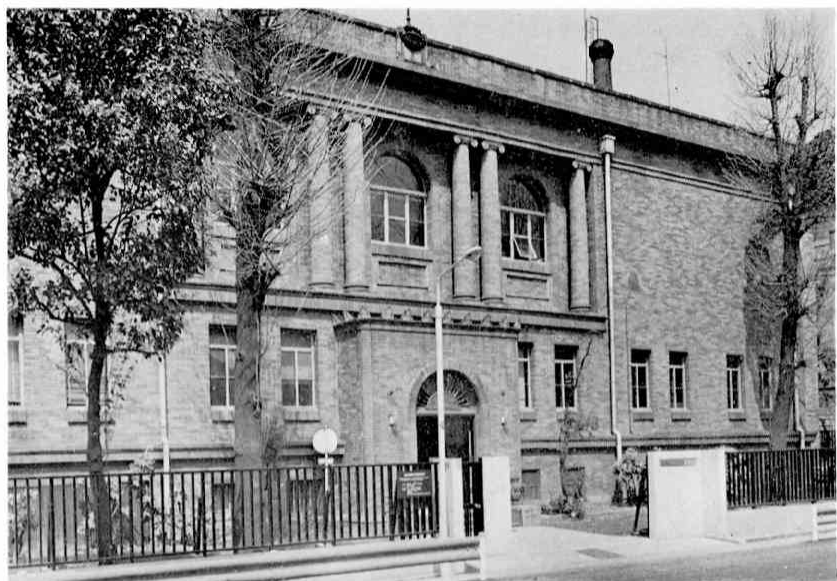


東京国立文化財研究所要覧

1982

昭和57年度



東京国立文化財研究所本館・情報資料部研究棟



東京国立文化財研究所保存科学部実験室・別館

東京国立文化財研究所建物所在図



1. 本館(美術部)
2. 書庫
3. 渡廊下
4. 保存科学部実験室(庶務課・保存科学部)
5. 別館(芸能部・保存科学部・修復技術部)
6. 渡廊下
7. 情報資料部研究棟

は じ め に

昭和57年度は研究面においても、また事業面においても、かなり多忙な年であった。まず研究面においては、昭和55年度より開始された文部省科学研究費 特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」が最終年度を迎え、それぞれの研究が進捗したことである。成果の一例をあげれば、赤外線テレビ装置の開発がある。近年文化財調査に対する赤外線の利用は普通のこととなり、多くの機関で利用しているが、今回開発された装置は現場作業に適しかつ詳細なデータを蓄積できる点で一頭地を抜く性能を持っている。当研究所でなければならない開発研究としていささか自負するとともに、共同研究などを通じて開発機器がより多くの場合に活用されることを望むものである。

研究交流の面について述べると、文化財保存および修復に関する国際研究集会は、その第6回として、ユネスコと共同して「木造文化財の保存」をテーマとして行った。ユネスコとの共催ははじめての経験であったが、このことは当研究所の今日までの業績が高く評価された証拠であって、同慶にたえない。同時にかかる大規模な研究集会を行い得たことは、当研究所にとっても将来への飛躍に対する自信となった。

いま日本は行政改革を最重要課題としている。臨時行政制度調査会が最終答申にむけ、具體的審議を行ったのも57年度であった。その過程で当研究所の活動についても種々の質問が寄せられた。その質問の内容やそこに含まれていた意見を謙虚に聞き、文化財研究所のあり方の基本に思いを到すところがあった。思うに研究所は二つの面を持っている。ひとつは文化財を総括した学術研究の中心的機関となるべきことであり、もうひとつはそこで得られた成果を国や地方公共団体ばかりでなく、民間をも含めた幅広い層に還元することである。そこで社会還元への第一歩として、まず第12回文化財保存修復研究協議会(主題 文化財の紙について)には、従来以上の各方面に案内状を送付した。その結果会議室を満席とする程多数の出席者を得、討議も例年に比べはるかに活発であった。この教訓を基礎に、今後ともさまざまな方法で当研究所の研究発展と成果の社会還元につとめてゆく所存である。

東京国立文化財研究所長

伊 藤 延 男

目 次

I 沿革	1
1 設立の経緯	1
2 年 表	1
3 歴代所長	5
II 機構と職員	6
1 機 構	6
2 職 員	7
III 調査研究	10
1 所 長	10
2 美 術 部	10
(1) 概 要	10
(2) 研究調査活動	12
A 文化財保存事業費	12
B 一般研究	13
C 科学研究費	16
3 芸 能 部	17
(1) 概 要	17
(2) 研究調査活動	19
A 一般研究	19
B 特別研究	21
C 科学研究費	21
4 保 存 科 学 部	22
(1) 概 要	22
(2) 研究調査活動	23

A	文化財保存事業費	23
B	一般研究	23
C	特別研究	28
D	受託研究	29
E	科学研究費	30
5	修復技術部	31
(1)	概 要	31
(2)	研究調査活動	32
A	文化財保存事業費	32
B	一般研究	32
C	特別研究	38
D	受託研究	38
E	科学研究費	40
6	情報資料部	41
(1)	概 要	41
(2)	研究調査活動	42
A	一般研究	42
B	特別研究	44
C	科学研究費	44
7	主要研究業績	46
8	その他の研究活動	62
IV	事 業	64
1	出 版	64
(1)	美術研究	64
(2)	日本美術年鑑	65
(3)	芸能の科学	65
(4)	保存科学	65
(5)	国際研究集会プロシーディングス	66

2	黒田清輝巡回展	68
3	公開学術講座	69
4	会 議	69
5	国際・国内交流	74
V	研究施設・設備	80
1	蔵 書	80
2	出 版 物	81
3	資 料	85
4	機 器・設 備	86
5	黒田記念室	92
6	閱 覧 室	93

I 沿革

1 設立の経緯

本研究所以、昭和27年4月1日発足したのであるが、その前身であり母体となったものは、昭和5年に創設された帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、大正13年7月、故帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選定を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原隼二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、また我が国美術上の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立のうえは一切これを政府に寄附すること。

2 年 表

昭和元年12月 前記の事業を遂行するため委員会が設置され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業について東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列について東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建築造営について東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務について遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月 美術研究所準備事業を開始した。

同年10月 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した(本館)。

同3年9月 前記の建物が竣工したので、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、同子爵の作品

沿 革

を陳列した。

同 4 年 5 月 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。

同 5 年 6 月 28 日 勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。

同 年10月17日 美術研究所開所式を挙行了た。

同 7 年 1 月 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物「美術研究」を創刊した。

同 年 4 月 18 日 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う 5 ケ年間毎年 5 千円、合計 2 万 5 千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

同 年 5 月 26 日 帝国美術院はこの申出を受理した。

明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。

同 9 年10月18日 毎年10月18日を開所記念日と定めた。

同10年 1 月 28 日 鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

同 年 4 月 「日本美術年鑑」の編纂事務を開始した。

同 年 6 月 1 日 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。

同12年 6 月 24 日 勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。

同 年11月29日 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。

同13年 2 月 12 日 木造、平屋建、延面積97㎡の写真室 1 棟が竣工した。

同19年 8 月 10 日 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

同20年 5 月 28 日 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目本間家倉庫 3 棟に疎開した。

同 年 7 ～ 8 月 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

同21年3月29日 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同 年4月4日 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し引揚げを完了した。

同 年4月16日 東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開中であった黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

同22年5月1日 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた。これが保存科学部の前身である。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66㎡)に設けた。

同 24年4月 本年か度ら科学研究費により光学的方法による美術品の鑑識に関する研究が開始された。

同25年8月29日 文化財保護法の制定に伴い、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

昭25年9月15日 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

同26年1月31日 美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第5号)が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。(昭和25年8月29日から適用)

同27年4月1日 東京文化財研究所組織規程(昭和27年文化財保護委員会規則第7号)が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。

また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同 年7月1日 芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。

同28年4月26日 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ、移転した。

同29年7月1日 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和29年文化財保護委員会規則第1号)、東京国立文化財研究所となった。

同32年3月22日 東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平家建、8㎡の

沿 革

保存科学部の薬品庫が竣工した。

同 年11月30日 従来の2階建書庫のうえに更に1階を増築3階建とし、増築分延面積71m²が竣工した。

同34年4月30日 国立文化財研究所研究受託規程(文化財保護委員会告示第14号)が定められ、この年度から受託研究が開始された。

同36年9月16日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和36年文化財保護委員会規則第1号)、従来の庶務室は庶務課となった。

同37年3月31日 東京国立博物館構内に保存科学部庁舎(保存科学部実験室)として、鉄筋コンクリート造2階建延面積663m²の建物1棟が竣工した。

同 年7月1日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和37年文化財保護委員会規則第1号)、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。

同 年7月20日 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工に伴い、旧保存科学部庁舎に移転した。

同43年6月15日 文部省設置法の一部が改正され(昭和43年法律第99号)、本研究所は文化庁附属機関となった。

同44年8月23日 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎(延1,950.41m²)の起工式が行われた。

同45年3月25日 前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。

同45年4月22日 芸能部は、別館3階に移転した。

同45年5月8日 保存科学部は、別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を終わった。

同45年6月29日 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が終了した。

同 年11月2日 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した。
(本館は、美術部庁舎となる。)したがって研究所の所在地表示は「12番53号」が「13番27号」に変更された。

同46年4月1日 保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658m²を東京国立博物館から所管換された。

同48年4月12日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和48年文部省令第6号)

新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。

同52年4月18日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和42年文部省令第10号)情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。

同53年3月20日 本館構内の写真等(木造平家建延面積144m²)を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積565.95m²の建物が竣工した。

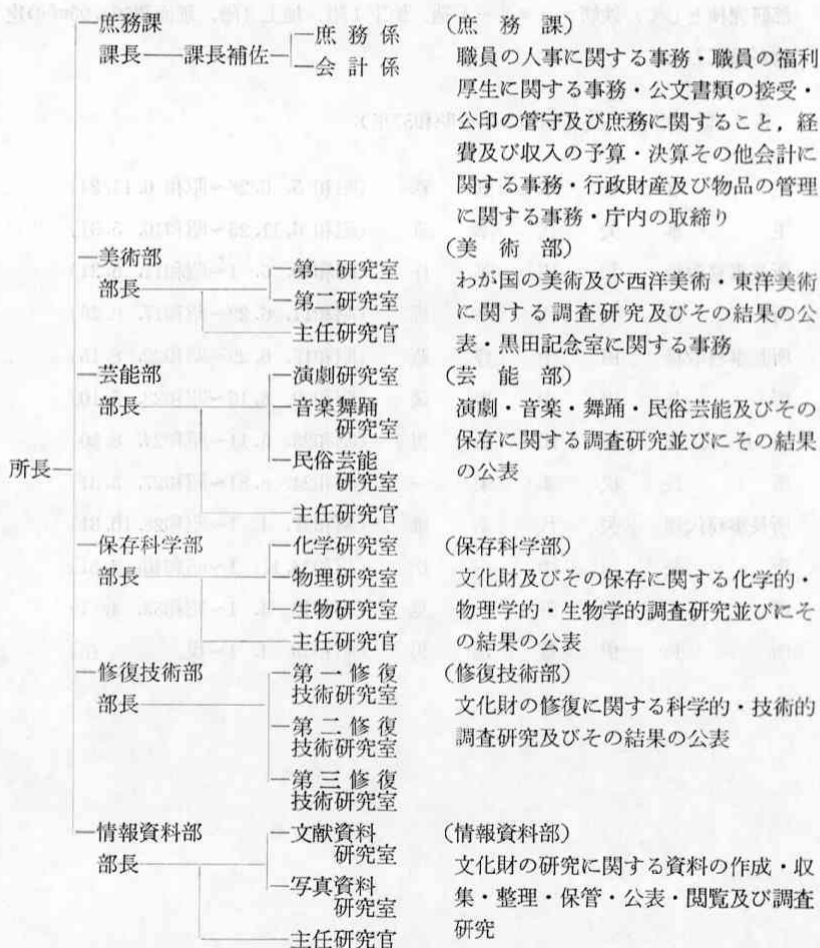
3 歴代所長(昭和5年～昭和57年)

主事	正木直彦	(昭和5.6.28～昭和6.11.24)
主事	矢代幸雄	(昭和6.11.25～昭和10.5.31)
所長事務取扱	和田英作	(昭和10.6.1～昭和11.6.21)
所長	矢代幸雄	(昭和11.6.22～昭和17.6.28)
所長事務取扱	田中豊蔵	(昭和17.6.29～昭和22.8.15)
所長	田中豊蔵	(昭和22.8.16～昭和23.5.10)
所長代理	福山敏男	(昭和23.5.11～昭和24.8.30)
所長	松本栄一	(昭和24.8.31～昭和27.3.31)
所長事務代理	矢代幸雄	(昭和27.4.1～昭和28.10.31)
所長	田中一松	(昭和28.11.1～昭和40.3.31)
所長	関野克	(昭和40.4.1～昭和53.4.1)
所長	伊藤延男	(昭和53.4.1～現在)

II 機構と職員

東京国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として設立された文化庁の附属機関である。その機構等は次のとおりである。

1 機 構



2 職 員

(昭和58年 3 月30日現在)

所 属	職 名	氏 名	
所 長	所 長	伊 藤 延 男	(日本建築史)
庶 務 課	課 長	守 谷 安 知	
	課 長 補 佐	西 山 博 次	
庶 務 係	係 長	能 村 浩 子	
	係 員	松 本 多 賀 子	
	事 務 補 佐 員	中 村 節 子	
	"	大 田 有 喜 子	
	"	小 木 喜 代 子	
	技 能 補 佐 員	薄 井 祥 子	
	調 査 員(非)	竹 中 弥 生	
会 計 係	係 長	齊 藤 朗 昇	
	係 員	相 沢 昇 子	
	事 務 補 佐 員	鎌 田 祥 恵 子	
	"	秦 成 一 雄	
	技 能 補 佐 員	高 松 田 ツ キ	
	業 務 補 佐 員	松 田 保 亨	(日本絵画史)
美 術 部	部 長	真 柳 沢 孝 子	(仏教絵画史)
第一研究室	室 長	柳 村 悦 子	(和漢書道史)
	主 任 研 究 官	田 村 和 子	(日本彫刻史)
	"	猪 川 栄 子	(染織工芸史)
	"	田 実 勝 彦	(装演技術)
	"	増 田 邦 枝	(資料整理・編集補佐)
第二研究室	事 務 補 佐 員(非)	高 橋 千 代	(日本近代絵画史)
	室 長	関 三 輪 英 夫	(日本近世・近代絵画史)
	研 究 員	三 佐 藤 道 信	(日本近代絵画史)
	"	大 西 純 子	(資料整理・編集補佐)
芸 能 部	部 長	三 隅 治 雄	(民俗芸能)
劇演研究室	室 長	佐 藤 道 子	(寺院芸能)
	調 査 研 究 員(非)	松 本 雅	(中世芸能)
音楽舞蹈研究室	室 長	蒲 生 郷 昭	(音楽学)
	研 究 員(併)	横 道 萬 里 雄	(中世芸能)
	調 査 研 究 員(非)	加 納 マ リ	(民族音)

機構と職員

所 属	職 名	氏 名	
民俗芸能研究室	室 長	羽 田 昶	(日本演劇)
	主 任 研 究 官	中 村 茂 子	(民俗芸能)
	調査研究員(非)	仲 井 幸二郎	(芸能史)
保 存 科 学 部	部 長	江 本 義 理	(分析化学)
	室 長	馬 淵 久 夫	(同位体化学)
	主 任 研 究 官	門 倉 武 夫	(大気汚染)
物 理 研 究 室	室 長	見 城 敏 子	(塗料化学)
	主 任 研 究 官	石 川 陸 郎	(照明・ラジオグラフィー)
	研 究 員	三 浦 定 俊	(微気象)
	技術補佐員(非)	富 沢 威	(分析化学)
生 物 研 究 室	室 長	新 井 英 夫	(微生物学)
	調査研究員(非)	森 八 郎	(応用昆虫学)
修 復 技 術 部	部 長	鈴 木 友 也	(美術史学)
	室 長	中 里 寿 克	(漆芸技術)
	専 門 職 員	茂 木 曙	(彩色保存技術)
第一修復技術研究室	研 究 員	西 浦 忠 輝	(木材材質改良学)
	室 長	鶴 田 武 良	(中国絵画史)
	室 長	樋 口 清 治	(高分子化学)
第二修復技術研究室	研 究 員	青 木 繁 夫	(考古学)
	部 長	宮 次 男	(日本中世絵画史)
	室 長	上 野 ア キ	(東洋古代絵画史)
第三修復技術研究室	主 任 研 究 官	江 上 綏	(日本古代絵画史・文様史)
	研 究 員	米 倉 迪 夫	(日本中世絵画史)
	事務補佐員(非)	竹之内 玲 子	(図書・文献資料整理)
情 報 資 料 部	"	保 坂 と き 子	(")
	室 長	関 口 正 之	(日本仏教絵画史)
	研 究 員	鈴 木 廣 之	(日本近世絵画史)
文 献 資 料 研 究 室	専 門 職 員	橋 本 弘 次	(美術写真)
	"	市 川 和 正	(")
	"	野久保 昌 良	(")
写 真 資 料 研 究 室	事務補佐員(非)	田 中 与 子	(写真資料整理)
	"	杉 山 葉 子	(")

機構と職員

昭和57年度における転退職者

庶務課	会 計 主 任	花 岡 忠 義	53. 6. 1~57. 4. 1	信州大学へ 転出
”	事 務 補 佐 員	宮 崎 真 澄	54. 4. 1~58. 1. 31	退 職
美術部	部 長	川 上 涇	21. 2. 28~57. 4. 1	”
”	主 任 研 究 官	陰 里 鉄 郎	41. 4. 4~57. 5. 15	”
”	事 務 補 佐 員	高 橋 邦 枝	54. 4. 1~58. 3. 31	”
”	”	大 西 純 子	54. 4. 1~58. 3. 31	”
情報資料 部	部 長	久 野 健	20. 5. 31~57. 4. 1	”
”	事 務 補 佐 員	田 中 与 子	53. 12~1~58. 3. 31	”

Ⅲ 調査研究

1 所 長

(1) 日本建築史の研究

従来よりの継続として行っているもので、本年度は引続き平安時代に重点を置いた。特に平安時代以前の石造塔につき資料の蒐集等を行った。

(2) 日本建築構造技法の研究

科学研究費 特定研究「古文化財」の第2期の第3年度として、「建造物・美術工芸品の劣化現象と保存修復に関する研究」の総括を行うとともに、その一部である「文化財建造物の構造力学的研究」研究班の総括責任者ともなった。研究班は、伊藤のほか東京大学教授杉山英男氏、同助手安藤直人氏、東文研西浦忠輝氏で編成し、文化庁建造物課主任文化財調査官、工藤圭章氏、同伊原恵司氏、奈文研平城部長岡田英男氏、同建造物室長吉田靖氏にも協力を願っている。

本年度は、各種民家軸組モデル及び改良案の耐力測定を行った。

(3) 文化財保護制度史研究

従来よりの継続として史料整理を行った。

(4) 木材年輪年代学の基礎研究

日光東照宮の好意により日光産スギ(昭和57年秋伐木、年輪数342)の良好なる円盤を得たので、その年輪幅測定を行い、前年度の成果同様4方向測定値に相当の関連性があることを確認した。そこで従来採集しておいた8本のサンプル(2方向)の数値を改めて吟味し、保存科学部三浦定俊氏に依頼し、異った個体間の相関性をコンピュータにより探索中である。なおこれに関連し、年輪形成の環境資料を得るべく、「社寺御番所日記」より江戸時代の天候を抽出している。

2 美 術 部

(1) 概 要

美術部は日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術とこれらに関連のある西洋美

美術部

術についての基礎的調査と専門的研究を行っている。美術部は現在2室に分かれ、古美術は第一研究室、近代・現代・西洋美術は第二研究室が担当する。

調査研究は美術部所属研究員の専門領域を中心として実証的に進められているが、学界現下の動向を把握するとともに将来の趨勢を洞察し、方法においても成果においても基礎的先駆的役割を果たして広く学界に寄与すべく努めている。そのため重要な研究課題に関しては情報資料部所属研究員と共同研究を行い、また当部独自の光学的研究法を活用し、すでに多くの成果を収めた。昭和53年度からは4カ年計画で情報資料部と共同の特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」を行い、これに関する資料収集を進めている。文部省科学研究費補助金による共同研究としては「古代中世における絵画彫刻染織品の材質技法に関する科学的研究」(特定研究・代表者柳澤孝)、「中世美術における伝統と大陸影響とに関する実証的研究」(一般研究A・代表者宮次男)に参加した。

これらの業績は、当部の機関誌「美術研究」(昭和7年創刊)に発表し、大部の成果は随時単行の研究報告書として刊行している。各研究員の研究課題と調査研究内容は、(2)研究調査活動の項に示す通りである。また、わが国美術界全般の動向を調査し客観的資料の提供を主眼とした「日本美術年鑑」(昭和11年創刊)を編纂発行している。

以上のほか、調査研究成果の一部を広く一般の理解に資するために、毎年1回、公開学術講座を情報資料部と共同で開催している。

また、黒田清輝の遺産と遺作の寄附に基づいて創立された美術部(旧「美術研究所」)の黒田記念室は、黒田清輝の作品その他関係資料を保管し、毎週1回木曜日の午後、一般に公開している。

第一研究室

日本及び東洋諸地域の古美術について、各研究員が専門とする領域と時代を中心に調査研究を進め、主要問題を捉えた共同研究を行い、常に精密な基礎資料の収集に努めている。また、第一研究室の研究員が「美術研究」の編集業務を担当している。なお今年度は上記の科学研究費による研究に分担参加した。

第二研究室

調査研究

明治以降の日本近代美術に関する調査研究と、これに関連する西洋美術及び日本近世の洋風美術の調査研究、並びに現代美術の動向に関する資料の収集と調査を継続して行っている。とくに、現代美術に関する調査研究においては、その年度に収集した資料を整理した結果を「日本美術年鑑」として毎年公刊している。本年度は、昭和55年の内容をもった昭和56年版を刊行し、引続いて57年版の編集に着手した。

また、研究所事業として昭和52年度以降実施してきた黒田清輝巡回展も当研究室が中心となって行われ、今年は5月に香川県文化会館、6月に高知県立郷土文化会館の二カ所において開催された。

(2) 研究調査活動

A 文化財保存事業費

国有文化財保存整備費の支出委任による調査研究

1. 重要文化財明治丸御座所板絵修復調査

重要文化財明治丸(東京商船大学保管)は老朽化が甚しく、文化庁では東京商船大学と分担協力して保存修理事業に着手していたが、文化庁の依頼をうけ、保存調査工事の一環として、明治丸が昭和20年進駐軍により接収された際ペンキで塗りつぶされた天皇御座所の間仕切化粧板9枚と扉2枚の板絵について、塗りつぶしたペンキ層の除去、絵画様式、描写技法、保存修復処置等について調査研究を行った。現状はそれぞれ縦長の画面部を設定し、各種の花枝を写實的に描写しているが、全面に白色塗料で塗りつぶされている。しかも1部は顔料の剥ぎ落しもあり、損傷が大きい状態であった。

調査に当りペンキ層下の残存彩色部の確認には、赤外線TV、紫外線蛍光写真、X線透過撮影、光学顕微鏡等による調査を行った。顔料と膠着材の分析は赤外線分光分析、X線蛍光分析により、表面ペンキの酸化チタン、白色顔料層の酸化亜鉛、炭酸カルシウムなどが検出された。

ペンキ層の除去法は、塗層断面の観察により、絵画面とその上の塗重ね層を確定した後、上層部の白ペンキをメチルセロソルブで湿布膨潤させ削り取り除去した。顔料の下塗層にはボルスの存在も確認された。

板絵は油絵の技法で描かれているが各種の花を装飾的に書き日本画的構図を思わせ

る。ハイライト、筆触、粘稠性のある絵肌、枝の上に塗り重ねて葉を描いている点などは油絵の技法であり、絵の描写技法は稚拙である。この絵がどこで描かれたか問題はあがあるが日本人が描いたか或は東洋画の粉本により英国において作画されたか今後の研究課題である。

表面塗りつぶし層の除去後、絵画塗層の剝離はバラロイドB-72のトルエン溶液を用いて塗層下に滲透させて固定処置した。

(美術部・保存科学部・修復技術部)

B 一般研究

1. 美術基準作品の研究

わが国古代中世の美術工芸品のうち、国宝・重要文化財あるいはそれに準ずる優作で、年記があって制作年代の明らかなものや作者・流派・様式等を代表するもの等の美術史上の基準作品について詳細に研究し、美術工芸遺品の体系づけに役立てる。

(1) 古代中世絵画基準作品の調査研究

1) 仏教絵画史研究

孔雀明王図の諸作品(某家本、松尾寺本、安楽寿院本、智積院本など)を調査し、その成果の一部を「美術研究」に発表した。また、東寺所蔵両界曼荼羅乙本に関する調査を行った。(柳澤)

2) やまと絵研究

わが国古代中世のやまと絵は、その発達に和歌とのかかわり合いが深く、四季絵或は歌仙絵など両者は不可分のものとなっている。やまと絵の現存遺例等をふまえ、かつこれら和歌文学の豊富な資料を用い、その関連性を探り、歴史的に明らかにする。その成果として「三十六歌仙絵(書伝為相筆)」(美術研究323号)他を発表した。(真保)

(2) 基準在銘彫刻の調査研究

京都・奈良の各博物館において各時代の基準作の調査を行った。愛媛石手寺、新潟柏崎阿弥陀堂本尊、福岡・大分・佐賀の基準作の調査を行った。(猪川)

(3) 尊像別分類による想像の研究

奈良国立博物館出陳の愛知無量光院、安楽寺の阿弥陀三尊の比較調査を行った。京都、滋賀、福岡の清涼寺式釈迦像の調査を行い、「美術研究」に発表の予定。(猪川)

調査研究

(4) 書蹟基準作品の研究

1) 仏教書道史の研究

部門別書道史の一部門として新たに開拓しようとする仏教書道史の研究の一環として真宗書道史研究に着手したが、引続き親鸞の書の特徴とその年代的発展の跡をたどって、親鸞の書蹟一般の編年を試み、或いは通説を疑い、或いは新説を支援した。(田村)

(5) 染織品の研究

1) 上代裂の研究

「上代裂の研究」は3年目で、東博特定研究の分担者として法隆寺裂・正倉院裂の基礎調査を続行している。(田実)

2) 近世初期染織品及び小袖の研究

和歌山市の紀州東照宮伝来染織品の調査、米沢市の上杉神社蔵上杉謙信所用袴類の調査、宮城県白石市の片倉家伝来陣羽織の調査・研究、日光山輪王寺伝来の舞楽装束(昭和58年3月、重文指定)を昭和56年度に引続き行った。(田実)

(6) 日本近代美術基礎資料の研究

明治丸遺存の壁画(板)について調査研究を行った。(関・佐藤)

2. 科学的方法による材料と技法の研究

X線透過法、赤外線写真、紫外線蛍光法、双眼実体顕微鏡、赤外線テレビ等を用いた科学的方法により、わが国美術工芸品の材料・技法・構造などを明らかにする。

(1) 古代中世絵画の材質技法に関する研究

別項記載の特定研究「古代中世における絵画彫刻染織品の材質技法に関する科学的研究」を代表すると共に同研究絵画班の一員として、赤外線テレビカメラによる法界寺阿弥陀堂柱絵の調査を実施した。(柳澤)

(2) 古代書蹟資料の材質技法に関する研究

1) 漆紙文書の研究

常陸国府に関係があると推定される茨城県石岡市鹿ノ子遺蹟から出土した漆紙文書について前年度研究を行ったが、その後更に出土した多数の文書に関しても赤外線テレビカメラにより撮影した写真をもとに解読し、多くの新知見を得た。これらは計帳の人口統計の一部で、常陸国十一郡を合せた人口数と考えられたので、これに基づき

常陸国の人口は当時20万人位と推定した。また神戸の人口「参伯例拾肆」という記載は、鹿島の神戸等は除いた大和神の百戸の課丁の数かと推定した。(田村)

2) 文房四宝と書道の関係に関する研究

書芸に必要な文房四宝(紙・筆・墨・硯)の性質が書蹟に大きく関係する。今年は、韓土に一種独特の書風を成立させる原因となった朝鮮筆(黄毛筆・狼尾筆などと称せられる)について調査研究した。(田村)

(3) 伝統的染織技術の調査研究

昭和56年10月末に修復が完了した片倉家伝来小紋胴服(重文)の復元に山辺知行氏、長板中型染の松原四兄弟、共立女子大被服研究室との共同研究で開始、今年度は染色に関し成功した。日光山輪王寺伝来胴着三領は、片倉家伝来小紋胴服の復元メンバーと同一で、一領は修復完了、二領は復元の調査研究に入った。また日本工芸会で昭和53年度から続けている東博蔵「白地風景模様茶屋染帷子」の復元も今年度は5年目に入った。(田実)

3. 美術様式と伝播の研究

わが国美術工芸に見られる様式の展開と系統を、インド・中国・朝鮮や西洋諸地域など諸外国にその源流を探り、その影響と受容の様相を明らかに位置づけると共に、国内における史的展開を体系化する。一方、日本以外の外国各地の美術に関してもそれぞれ様式の検討を行う。

(1) 江戸後期洋風画の研究

佐竹曙山、小田野直武、司馬江漢を中心に、江戸後期洋風画家の作品を花鳥図、風景図、風俗図の題材別に調査し、その成果を公表した。(三輪)

(2) 明治初期洋風画の研究

国沢新九郎、岩橋教章他、明治初期洋画家の作品並びに文献調査を行い、その成果を公表した。(三輪)

(3) 水彩画の研究

近代作家の水彩画に関する文献調査を行った。(三輪)

(4) 日本古代彫刻並びに源流としての東洋彫刻の研究

正倉院展出陳の厨子押出仏、大阪大將軍寺、壺井寺の金銅像等を調査。日本古代彫刻の源流をなす「百済・新羅の金銅仏展」ほか各博物館等に於いて中国、韓国の諸作例

調査研究

を調査した。(猪川)

(5) 東洋仏教絵画史の研究

1) パーミヤーン壁画の研究

ギメ美術館所蔵のパーミヤーン壁画断片及び塑像を現地で調査撮影した。また先に参加した成城大学調査隊によるパーミヤーン壁画の調査と撮影した写真とを整理すると共にその共同研究に従った。(柳澤)

2) 敦煌絵画の研究

ギメ美術館、大英博物館所蔵の敦煌将来絹絵の調査を実施した。(柳澤)

(6) 大陸画の影響と受容に関する研究

日中絵画交流史研究の一環として、兵庫岸本家、岡山尾崎家等収蔵の来舶画人作品の調査、研究を行った。(鶴田)

4. 作家・流派及び美術団体の研究

著名な作家の伝記と作品、作家の属する流派や美術団体の活動などを網羅的に調査して、実体を明らかにする。

(1) 近代日本美術研究

1) 近代洋画研究

久米桂一郎の文献、主に日記の調査を行い、その成果の一部を公表した。(三輪)

2) 近代日本画研究

明治以降の作家と団体及び美術批評についての研究調査を行った。作家としては橋本雅邦、菱田春草、下村観山等について調査した。(関・佐藤)

(2) 近・現代中国画壇の動向に関する研究

近・現代中国画家資料の収集及び現代中国絵画の動向について調査を行った。(鶴田)

C 科学研究費

「古代中世における絵画彫刻染織品の材質技法に関する科学研究」

(特定研究 I 研究代表者 柳澤 孝)

特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」(略称「古文化財」)は昭和55年度より開始され、昭和57年度は第3年目の最終年次に当たった。本研究の課題名は56

年度より下記のような分担研究の統合で変更されたが、研究は従前通り、絵画、彫刻、染織の各班ごとに進められた。

「科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究」(総括 柳澤孝)

「古彫刻の構造の検出方法に関する研究」(総括 群馬工専教授 呉屋充庸)

「古代染織品の保存科学ならびに材質と技法に関する研究」(総括 進化生物研究所主任研究官 林孝三)

絵画の研究班は柳澤のほか、学習大学教授秋山光和氏、東文研情報資料部室長関口正之氏、神戸大学助教授百橋明穂氏(以上人文系)、東文研保存科学部三浦定俊氏、東京農工大教授森田茂広氏(以上自然科学系)の6名で編成された。本年度も前年度に引続いて赤外線テレビカメラによる法界寺阿弥陀堂柱絵の調査研究に重点をおいて実施した。昨年調査の困難であった柱上部については補助架台を開発したことにより、各柱の尊像帯や文様帯などのすべてにわたり調査を完了することができ、ここに漸く資料が整備され、図像学的な解明や美術史的検討が可能となった。

これらの詳細と他の分担研究班の成果は57年度特定研究「古文化財」年次報告書に記載されているので参照されたい。

3 芸 能 部

(1) 概 要

芸能部は、日本の伝統芸能に資するために必要な基礎的研究を行うことを目的とし、演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究室の三室より構成されている。芸能部の研究目標としては、諸芸能の理念・構造・技法及びその継承保存に関する研究などがあり、その研究に必要な資料の収集・整備及び記録の作成のための撮影・録音・録画などの作業を行う。また研究の結果は刊行・研究発表会・公開学術講座の開催などによって公表する。

本年度は、共同研究としては「狂言の技法の研究」「舞楽の音楽技法の研究」「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」の課題に対して、研究員が何名かずつのプロジェクトを組んで調査研究を行った。また昨年に引続き特別研究として「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調

調査研究

査研究」を研究員全員で実施した。文部省科学研究費補助金による共同研究としては、「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」(総合研究A, 代表者 佐藤道子)が行われた。そのほか、各研究員は個々に研究課題を選んで実証的な研究を行った。

以上、各研究員による共同・各個の諸研究は、いずれも文化財行政に直接間接に寄与する基礎的な調査研究であると同時に、従来立ち遅れ気味のわが国の芸能研究を推進せしめ、日本芸能学の樹立に貢献する基盤となる重要な研究である。

また、月例の研究会活動として、各研究室ごと、あるいは複数の研究室共同で、外部研究者・演奏者等をまじえての研究集会をもよおしている。本年度は、「能楽技法研究会」「二月堂研究会」「長唄正本研究会」「民謡研究会」を行った。また例年7月、外部研究者・大学院生を対象としてもよおす連続研究発表会の本年度のテーマは「三味線と三味線音楽」で、7月5日から4日間にわたって行った。また恒例の公開学術講座は、「舞楽の音楽 その技法」のテーマで12月2日に朝日ホールで開催した。

刊行物としては「芸能の科学」13「東大寺修二会の構成と所作」別巻を刊行した。

演劇研究室

演劇研究室は、日本古典演劇について芸能学的・演劇学的に調査・研究を行い、またこれら諸芸能の周辺にあって、伝統芸能の成立に深い関係をもつ諸分野についても調査研究を進めている。

本年度は、個人研究として「寺院行事の研究」「能の演出史の研究」を行い、共同研究として「狂言の技法の研究」を行った。また文部省科学研究費による研究として「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」(総合研究(A) 代表者 佐藤道子)についての調査・撮影を行った。

音楽舞踊研究室

日本の音楽と舞踊について、芸能学的・音楽学的な調査・研究を行い、これら伝統芸能の成立に深い関係を持つ周辺分野についても、調査研究を進めている。

本年度は、個人研究として「邦楽用語の研究」「三味線と三味線音楽の研究」「雅楽曲の研究」「江戸時代の音楽についての研究」を行い、共同研究として「舞楽の音楽技法の研究」を行った。

民俗芸能研究室

全国各地に分布伝承する民俗芸能を対象とし、それらの芸能の保存・活用に資するために必要な研究を行っている。本年度は、個人研究として「田楽芸の研究」を行い、共同研究として「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」「狂言の技法の研究」を行った。

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 寺院行事の研究

寺院行事が内包する多種多様な要素の中から芸能的要素を抽出し、各宗派にわたる総合的比較研究を行い、その変遷・分化をあとづけることを一貫した目的とする。本年度は、昭和41年度以降継続的に実施した「東大寺修二会の調査研究」に関する研究調査録最終巻(第四冊)の執筆刊行を行い、本年度を以て東大寺修二会の実地調査を完了した。

また、上記と関連して東大寺・興福寺・西大寺所蔵の^{けいかえ}悔過会関係文書の調査・撮影を行い、法会の実地調査としては三千院の「御懺法講」、円通寺の「御影供」、西大寺の「光明真言会」、真如堂の「引声阿弥陀経会」の調査を行った。(佐藤)

2. 能の演出史の研究

能の演出面の変化を、詞章面だけでなく面・装束・囃子などの構成要素全般の変遷をたどることによって考えようとするもの。本年は、今年の〈語り〉と関係の深い〈クセ〉という小段をとりあげた。(松本)

3. 邦楽用語の研究

邦楽の用語は、各分野ごとに区々な使われ方をしている。本研究は、それらを総合的に把握・整理して、同語異義、異語同義などの様相を明らかにし、新しい用語体系の確立に資することを目標とする。本年度においても、その一部を達成した。(浦生)

4. 三味線と三味線音楽の研究

日本の民族楽器を代表する三味線を、楽器学的、および音楽史的に研究し、浮世絵や古川柳での扱われ方などを参考にしつつ、その享受面をも考察した。また、現代

調査研究

音楽における取り扱われ方についても概観し、問題点を検討した。(蒲生)

5. 雅楽曲の研究

現行の雅楽曲を、楽器編成、楽曲構成、その起源や由来、舞のあるものについては装束や持物を、古文献および実際の演奏などから資料収集、分析研究を続けている。(加納)

6. 江戸時代の音楽についての研究

江戸時代に書かれた多くの芸能に関する文献のうち、音楽あるいは音楽家についてのものを収集し、さまざまな階層の著者が見つめた当時の音楽観を分析した。(加納)

7. 舞楽の音楽技法の研究

雅楽の中にあって、芸術的にその中心部分を占める舞楽について、舞と音楽との結びつき、音楽構造の多様性、楽章編成法などを研究した。(蒲生・加納)

8. 田楽芸の研究

田楽芸を機能的・形式的に細分類してみることによって、田楽芸の構造を明らかにするための調査研究を行った。(中村)

9. 民俗芸能の民俗的基盤の研究

芸能を、その行われる季節・場所・参加者(演者・観客を含む)などの面から取りあげる連続した研究の一環として、「道中の芸能」に関する調査研究を行った。(三隅・仲井)

10. 民俗芸能伝承方法の研究

各種民俗芸能の伝承方法について資料の収集・分析を行った。(三隅・中村)

11. 民謡の研究

日本の民謡の研究において、民謡の芸謡的要素を無視してはその全き姿をとらえることができないという観点より、上代から近世に至る日本の民謡伝承の上に占める芸謡の位置を究明する目的をもって、前年度に引き続き近世歌謡の分析を行い、あわせて童唄の、特に遊戯唄の芸謡的要素についての調査研究を行った。(仲井・三隅・中村)

12. 話芸・寄席芸の研究

落語を主として話芸・寄席芸を対象とする近世芸能の研究を安原コレクション邦楽レコードの整理を通じて続行中である。(三隅・仲井)

13. 狂言の技法の研究

狂言の「型」、とくに狂言小舞の動作単元を整理・分類する作業を続行し、流派間の異同・能の動作単元との比較等の調査を行い、和泉流における小舞の動作単元一覧を作成したのに続いて、大蔵流の動作単元に着手した。(羽田・松本)

B 特別研究

「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究」(4カ年計画の3年度)

民俗芸能の伝承を支える各地域の社会的条件を具体的に把握しながら、伝承条件の変化に対応する新たな伝承の仕方(継承者選定及び技法習得過程)について、各地域の関係者が具体的にどのように対処すべきかの方法論を示すための調査研究を行うべく、全国各地から伝承法のそれぞれに特徴をもつ地域を選んで調査を行った。

本年度の調査対象およびその所在地は次のとおりである。

- a. 風流系芸能……風流物(茨城県日立市)
- b. 神楽系芸能……高千穂神楽(宮崎県高千穂町)
- c. 田楽系芸能……田植踊(岩手県和賀郡地方)・雪祭り(長野県阿南町)
- d. 郷土歌舞伎……地芝居(長野県大鹿村)

C 科学研究費

「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」(総合研究(A) 研究代表者 佐藤道子、研究分担者 松本雅、永村真、安達直哉、有賀祥隆、山岸常人)

南都諸宗における仏教儀礼のさまざまを、史的・経済的・人的背景や建造物・法具等の、場的・物的要素を裏づけとして総合的視野で分析し、仏教儀礼の史的変遷形態を通して日本文化の流れを明らかにすることを目的とするが、本研究では悔過会に重点を置き、その特色・意義・史の変遷を追求する。

第一年次である本年度は、東大寺図書館・興福寺・西大寺・宝山寺・春日大社等の所蔵文書について調査撮影を行い、東大寺修二会をはじめ、観世音寺・玉垂宮・岩戸寺等北九州の諸寺社、長寿寺(滋賀県)の修正会について実地調査を行い、北九州一帯の古社寺や丹後・丹波、摂津・播磨各地の古寺に、悔過会の残存事例を求めて基礎調査を行った。

調査研究

4 保存科学部

(1) 概要

文化財の材質・構造に関する科学的研究、ならびに文化財のおかれている保存環境の自然科学的研究を行い、これらを基礎として文化財の保存に関する技術的研究を行っている。研究の成果は文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられている。また文化財の年代測定・産地推定の基礎的研究も手掛けている。

研究組織は化学研究室、物理研究室、生物研究室の3室から成っている。調査研究の結果は、修復技術部と共同の機関誌保存科学により公表される。

化学研究室

文化財およびその保存に関する化学的調査研究(分析化学的調査研究を含む)、ならびにその結果の公表を職務としている。

内容としては、微量分析または非破壊分析による無機物質・有機物質の材質とその劣化に関する研究、展示・保存環境における汚染因子の究明と、それらの文化財への影響に関する研究、劣化防止に関する研究を行っている。

物理研究室

文化財およびその保存に関する物理的調査研究ならびにその公表を職務としている。文化財自体の構造・強度の力学的試験を行い、X線・ γ 線のラジオグラフィーによる内部構造、欠陥、虫害、腐朽の解明を行っている。また赤外線テレビによる銘記、下絵等の判読にリモートセンシングの手法を取り入れる試みを行っている。

また保存環境に関し、採光、照明、温湿度等の影響とその防止の研究を行うほか、展示、収蔵、梱包輸送の際の適正条件の設定と湿度調節技術を開発し、新施設を使用する際に必要な処置の研究を行っている。

生物研究室

文化財およびその保存に関する生物学的調査研究とその公表を職務としている。文

化財の微生物や昆虫等生物による被害調査、加害生物の採集・培養・同定ならびに加害生物の殺菌・殺虫等の防除法の研究開発、実施の指導を行っている。

特別研究「石造文化財一石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究」は修復技術部との共同研究で、第6年次として石造文化財の凍結融解による劣化機構の解明、保存管理方法、合成樹脂処理による強化法等の確立を総合的に推進させている。

受託研究は「史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究」、修復技術部と共同の「国宝、重文日光社寺建造物に関する研究」および「伊達家三代綱宗公墓所発掘に伴う保存科学的調査研究」を行った。

(2) 研究調査活動

A 文化財保存事業費

国有文化財保存整備費の支出委任による調査研究

重要文化財明治九御座所板絵修復調査(美術部・修復技術部と共同研究12頁参照)

B 一般研究

1. 文化財の材質・構造に関する研究

(1) 非破壊分析、微量分析

1) 蛍光X線分析

青銅鏡、青銅器、金銅仏(新羅仏ほか)、彩色土器、彩色壁画につき非破壊的方法により材質を分析、技法との関連を調査した。(江本)

2) 鉛同位体分析

昨年度より引続き、約300点の青銅遺物の測定を行った。過去に測定した700点余の鏡、銅利器、方鉛鉱のデータから、日本・中国(北部と南部)・朝鮮半島(北部と南部)の鉛が明確に区別できるようになった。これを基にして、銅鐸の原料が初期は朝鮮半島南部、中期は中国北部、末期は中国北部の画一的原料と、三元的に解釈できることを明らかにした。(馬淵)

(2) 縄文時代の塗装技法に関する研究

晩期縄文式土器の表、裏面に塗装が行われている。この塗装技法は4種類に大別さ

調査研究

れることがわかった。(見城)

(3) 法隆寺献納宝物特別調査 —東京国立博物館—

押出仏調査に参加し、X線透視による構造調査、非破壊的蛍光X線分析による材質調査を行った。(江本・石川)

(4) 地獄門(ロダン作)調査 —国立西洋美術館—

ほぼ全面をX線透視撮影を行った。さらに構造が複雑で判読が困難な部分について、立体X線透視撮影(招へい研究員 群馬工専 呉屋充庸氏の協力)を行って、内部に亀裂が存在することを明らかにした。(石川・三浦)

また、本体内部、取付け鉄棒、ボルト等の腐食生成物のX線回折分析を行い、腐食状況の調査を行った。(江本)

(5) X線、 γ 線による構造調査

新羅仏・青銅鏡の透視による構造調査を行った。(石川・三浦)

またそれに関連し、ブロンズ製品X線撮影のための基礎的資料として、ブロンズの厚み・X線強度・撮影時間・距離・フィルム種別などをいろいろに変えて撮影し、濃度チャートをつくる実験を群馬工専と協力してはじめた。(三浦)

γ 線源を従来のコバルト60からセシウム137(2キュリー)に変更し、鉛フードなど取り付けて散乱を少なくした結果、コントラストの良い鮮明な γ 線透過写真がとれるようになった。(三浦)

桂離宮内茶室等建物の壁体の構造調査を行った。(石川・三浦)

(6) リモートセンシングの文化財への応用

特定研究1「科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究」に関連させて、赤外分光スペクトルを利用した顔料(特に緑青と群青)の判別を試み、条件によっては可能なことを確かめた。(三浦)

(7) 古代ガラス玉の屈折率のレーザーによる非破壊測定

千葉県市原市神門4号墳出土、福島県須賀川市博物館所蔵、岡山県岡山市百間川遺跡出土などのガラス玉や破片を測定した。すでに測定個数が200個をこえグループ分けが可能になりつつある(東博・群馬工専と共同)。(三浦)

2. 文化財の保存及び展示環境等に関する研究

(1) 施設内の環境調査

展示室・収蔵庫内の温湿度、照明等の環境の測定、新設展示施設のシーズニングの検討を行い、展示、保存環境の適否に関し調査を実施している。(江本・見城・石川)

新設施設

八戸市博物館	(青 森)
岩手県立博物館	(岩 手)
栃木県立博物館	(栃 木)
日光輪王寺宝物殿	(")
小山市立博物館	(")
埼玉県立近代美術館	(埼 玉)
福井県立若狭歴史民俗資料館	(福 井)
三重県立美術館	(三 重)
長浜市立博物館	(滋 賀)
京都府立山城郷土資料館	(京 都)
京都市歴史資料館	(")
和泉市立久保惣記念美術館	(大 阪)
兵庫県立博物館	(兵 庫)
神戸市立博物館	(")
姫路市立美術館	(")
佐賀県立美術館	(佐 賀)

(2) 密閉梱包の研究

ケースに比べて被梱包物以外の占める空間が小さい密閉梱包の際、紙、木質など吸水量の多い材質を対象とする場合、調湿剤の効果は特に低い。従って巻物、屏風、木製文化財など多量の紙や木質を含む密閉梱包の最適条件を求めるため、各種材質を多量に充填した密閉梱包内における温度変化に対する湿度変化を調べ、被梱包物の空間占有率と調湿剤の最適使用量との関係について研究した。(見城)

(3) 展示ケースの研究

現在、種々の展示ケースが用いられているが、ケース外の展示室内と何らかの導通のあるものが多い。これは狭いケース内に温湿度がこもることを防ぐという観点から得策であるが、文化財を囲む雰囲気は絶えず変化する点で好ましいものではない。そ

調査研究

こで、外気流通型と密閉型の両方の得失を検討し、最適なモデルケースの条件を追求する。(見城)

(4) 保存、展示環境に関する研究 —汚染因子の除去—

空調についている活性炭のフィルターは主に屋外汚染を除去するためのもので、屋内汚染は除去できない。展示室内の屋内汚染を除去するためには活性炭とゼオライトその他の吸着剤を併用したフィルターによって、屋内汚染を除去する研究をすすめている。(江本・見城)

(5) 文化財の保存環境に関する研究

文化財周辺における金属テストピースの曝露試験、粉じんに関する調査等継続中。

大気に晒された銅錆中の塩素、炭酸、硝酸、硫酸を分析し、環境汚染因子との関係を検討したところ内陸地域でも塩素が高い割合で検出された。

大気中の塩素、ナトリウムイオンの測定を行った結果、それぞれのモル濃度は比例関係に近い値であつた。継続中。(門倉)

(6) 未開口埋葬施設内環境に関する研究

本年度は、宮中野古墳(茨城県)および長岡藩主牧野家十三代墓所(東京都)の調査を行ったが、宮中野古墳では、埋葬施設が盗掘されていたため試料の採取ができなかった。牧野家十三代墓所では、木棺内の空気組成を分析した結果、炭酸ガス濃度が8.32%の高い値であった。理由についてはウレタン処置が考えられるが検討中。(門倉)

3. 文化財の生物劣化とその防除に関する研究

(1) 実態調査と防除対策

文化財に被害を及ぼす生物(微生物、昆虫等)の実態調査を行い、被害の状況に応じた防除対策を検討して助言・指導を行っている。本年度は、下記の調査と防除対策を実施した。(新井・森)

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1) 石膏レプリカに発生した糸状菌の殺菌ならびに除去。(新井) | 57. 5 |
| 2) 栃木県立歴史博物館の収蔵庫の調査と助言。(新井) | 57. 5 |
| 3) 群馬県立歴史博物館の燻蒸指導(新井・森) | 57. 5 |
| 4) 国立歴史民俗博物館燻蒸設備のガス漏洩試験(新井) | 57. 8 |
| 5) 東京国立近代美術館収蔵庫の加害生物防除対策(新井・森) | 57. 12 |

(2) 文化財の長期保存に関する研究

同時2軸延伸ポリビニルアルコールフィルムを、出土遺物等の保存に応用する研究を昭和55年以来継続して実施し、2.5年経過した時点でも保存状態が良好である。(新井・見城・森)

(3) 微生物学的研究

- 1) 紙質文化財に発生する褐色斑(Foxing)に特異的にカビを発生せしめることが可能となり、このカビを分離して形態学的・生理的性質の研究を行い、紙の褐色斑発生機構を研究中である。(新井)
- 2) 文化財に着生した糸状菌の水分活性(water activity)の測定ならびに糸状菌の生成する有機酸分析は継続して実施し、文化財保存環境の推定と劣化要因を究明する研究。(新井)
- 3) 木材の一端を水中に浸漬する場合の防腐対策を目的とし、各種処理木材について吸水量を比較検討し、木造建造物修復時の防腐処理方法選択の資料とした。(新井)
- 4) 伊達家墳墓善応殿ならびに越後長岡藩主牧野家墳墓の調査時に、密閉度良好な石室および木棺内の微生物を調査した。(新井)

(4) 昆虫学的研究

- 1) 岐島神社大鳥居の海虫対策として、低毒性防虫剤を用いる可能性を検討するために、4種の防虫剤で処理したクス材を海中に12か月間固定および係留し、クス材からの薬剤溶出量の測定と海中生物による加害状況を観察記録した。(森・新井)
- 2) 絵画とくに日本画に発生する虫害を網羅し、あわせてその防除措置にをまとめた。(森)
- 3) わが国において建材から発生する害虫の実態と問題点を整理した。(森)
- 4) 家屋に発生する虫害の調査方法をまとめた。(森)

(5) 燻蒸法および防虫防黴剤

多湿な環境に配置したパラホルムアルデヒドは、必ずしも完全に蒸散しないことがあるので、パラホルムアルデヒドを積極的に気化する方法について検討した。

また、蒸散性防虫・防黴剤が常温で一定空間に配置して防虫・防黴効果を発揮する必要最少量を、パラホルムアルデヒド、チモール DDVP 等について実験的に求めた。

調査研究

(新井・森)

4. 考古遺物・遺蹟等に関する考古化学及び保存に関する研究

(1) 水中引揚げ遺物に関する研究

北海道江差・開陽丸遺物, 長崎県鷹島・元寇関係とみられる遺物について材質, 腐食生成物及び, それらの海域での底質を分析し, 埋蔵環境での劣化との関連を検討。遺物の保存処理及び経年変化の点検, 収蔵環境の保全等の指導を行った。(江本)

(2) 遺跡等の保存

佐賀・史跡久保泉丸山遺跡, 福岡・史跡王塚古墳, 静岡・史跡柏谷横穴遺跡等の保存委員会に参加し, 調査および対策立案を行った。(江本)

5. 国宝 高松塚壁画保存・修復への協力(修復技術部と共同)

壁画の保存状況点検が, 文化庁美術工芸課によって昭和57年10月に行われた。その際, 微生物汚染の点検, 殺菌処置および壁画面の点検, 修復処置を行った。(新井・増田)

C 特別研究

石造文化財一石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続, 第6年次, 修復技術部と共同研究)

石造文化財および付随する材料として, 煉瓦, 瓦類の焼成品, 土壁, たたき等に関して, それらの劣化機構の解明, 保存管理方法および強化修復技術の確立を総合的に推進させるのを目的としている。

本年度は下記の調査研究を重点的に行った。

(1) 凍結融解による石の劣化の研究

前年度に引続きシングアラウンド法により岩石中の超音波伝播速度を測定して, 岩石(凝灰岩・安山岩)の凍結融解繰返し実験による破壊を調べた。(北大低温科学研究所 福田正己氏と共同)

石の凍結破砕の原因が凍結線直下への水分の集積とその水が凍結する際の凍上力にあること, それを防止する方法としてシリコン樹脂の含浸が, 石の表面に撥水層をつくって外部からの水の供給を絶つために, きわめて有効であることなどを明らかにし

た。(三浦・西浦)

(2) 塩類風化による劣化の研究

凝灰岩の典型的な塩類風化の例である館山市・大福寺・磨崖十一面観音立像について、特定研究 石造品保存研究班と連携して、現地調査(地質、ボーリング、折出物、水の挙動)ボーリングコアによる地層、溶出成分の確認等により、劣化のメカニズムを解明、クリーニングおよび硬化処理の実験を行った。(伊藤・江本・鈴木・樋口・三浦・西浦・新井)

同じ塩類風化によって損傷を受けている群馬県倉賀野町・安楽寺古墳、石室内壁に刻まれた石仏群の現地調査を行った。(江本・鈴木・樋口)

(3) 大谷石の湿度に関する劣化現象

大谷石を20~40°C、30~90% R. H. の種々の条件に2年間近く置き、各温湿度における含水率を測定した。また、92%および75% R. H. の高湿状態から、絶乾状態に置いた大谷石の表層における劣化現象を観察した。その結果、鱗片状剝離と粉化のそれぞれの状態変化が異なることが判った。(見城)

(4) 劣化した石の強化、保存のための基礎実験

引続き各種の薬剤の合浸処置に関する研究を進めている。その効果判定は、飽和塩類溶液浸漬一乾燥繰り返し試験、凍結一融解繰り返し試験、引張剝離試験、屋外曝露試験等で行っている。本年度から、従来の凝灰岩(大谷石)、安山石(白河石)に加えて、大理石(ギリシャマーブル)についても試験を開始した。大理石による試験は、研究の国際的評価を問い得るデータが得られるという意味で重要である。(西浦)

(5) 外国における石の保存処置に関する文献収集

昨年度にひきつづき、外国で出版された学会誌、雑誌、シンポジウム記録等の出版物から、石の保存処置に関して特に重要な報告を選び抄訳している。今年度は、フランス歴史記念物研究所で行った講習会のテキストの抄訳を主に行い、これを終了した。(三浦・西浦)

D 受託研究

1. 虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究(茨城)

保存公開施設による石室内壁画の一般公開は、勝田市教育委員会により春秋に実施

調査研究

されているが、閉鎖中および公開前後の壁画の点検、石室内および観察室の環境保全について専門的な事項を受託研究費により実施した。その内容は、石室内および観察室の閉鎖中における温湿度、空気組成、微生物の調査、公開前後の計機類の点検補正、閉鎖のための処置を行った。なお昭和49年度よりの調査研究をまとめ(受託研究報告第51号)保存科学第22号に報告した。(江本・門倉・見城・新井)

2. 国宝、重文日光社寺建造物の保存に関する研究(栃木・修復技術部と共同)

二天門の黒化現象はけやき材の水溶性成分が、下地施工時に抽出されて表面に浸出し、そこにかびが繁殖することによることがわかっている。従って今年度は水溶性成分の表面浸出を防ぐための対策として、古くから木のヤニ止めに用いられている柿渋などの効果を検討している。

建造物の平彩色等のカビが発生するのは彩色顔料の接着剤として膠が用いられていることに起因する。本年度も防霉剤を配合した膠を用いた胡粉塗装の塗膜剝離の再現実験および膠塗膜の接着強度試験を行っている。(江本・見城・新井・鈴木・中里)

3. 伊達家三代綱宗公墓所発掘に伴う保存科学的調査研究(宮城・修復技術部と共同)

綱宗公霊廟善応殿再建に伴う墓所発掘調査が昭和58年1月17日より開始された。石室開口前に内部の温湿度、空気組成、微生物測定用空気試料を採取した後、遺物取上げに伴う注意事項を指導し、取上げ遺物の応急処置を行った。(江本・門倉・見城・新井・樋口)

E 科学研究費

昭和55年度より開始された文部省科学研究費 特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」の第3年次で、当部関係の研究課題および研究代表者、分担課題および分担者は下記のとおりである。

1. 建造物・美術工芸品の劣化現象と保存修復に関する研究

代表者 伊藤 延男

(1) 応急処理した彩色遺物の保存に関する研究

総括 江本 義理

1) 膠着剤および有機材料の分析

門倉 武夫

(2) 紙の劣化機構の解析と復元化に関する研究

総括 門屋 卓

保存科学部・修復技術部

- 1) 紙の保存に関する環境条件の検討 三浦 定俊
2. 古代中世における絵画彫刻染織品の材質技法に関する科学的研究
代表者 柳澤 孝
- (1) 科学的調査法による日本・中世絵画の実証的研究 総括 柳澤 孝
- 1) 赤外テレビ撮影法の開発と応用の研究 三浦 定俊
- (2) 古彫刻の構造の検出方法に関する研究 総括 呉屋 充庸
- 1) X線透過法による彫刻の調査研究 石川 陸郎
3. 青銅製遺物の材質と技法の研究 代表者 樋口 隆康
- (1) X線分析 江本 義理
- (2) 鉛同位体比測定 馬淵 久夫
4. 水中遺構遺・物の探査および保存に関する研究 代表者 茂在 寅男
- (1) 水中遺物の保存 総括および遺物の材質とその劣化 江本 義理
- (1) 有機質遺物の保存 見城 敏子
- (2) 遺物の生物劣化とその対策 新井 英夫

5 修復技術部

(1) 概 要

修復技術部は、文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究とその公表を主務とする部で、保存科学部が主に文化財の保存にかかわる科学的分析研究をつかさどる部であるのに対し、修復技術部は老化破損した文化財を修理または復元する方法を科学的、技術的に研究する部である。さらに伝統的な製作技法、修復技術を科学的に調査研究している。

研究対象としては、絵画、書跡、彫刻、工芸品、考古資料、出土遺構および木造構造物およびその組織や細部に描かれた絵や彩色、石造構築物などに及ぶ極めて広範囲の文化財があげられる。

研究組織としては、3研究室6研究員1専門職員からなっている。

第一修復技術研究室

調 査 研 究

木材及び漆を主材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第二修復技術研究室

紙、繊維又は皮革を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第三修復技術研究室

石、金属、土又はその他の無機材質の文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

各研究室とも、経常的な研究として、有形文化財を構成している材料、構造、製作技法についての研究や、それらを修復するための伝統技術の整理体系と科学的裏付けの資料集積、そして更に科学的な材料、技法の修復への応用と開発のための実証的な研究などを実施しており、とくに材質強化、補強、接合、剝落防止、朽損部充填などについて各種合成樹脂の応用と技法の開発に努めている。

これらの研究過程においては保存科学部との共同研究が必要な部分もあり、また部内においても、一つの文化財が二つの研究室にまたがる複合的な材質からなる場合も多く、それらについては各研究室員による共同作業によって研究が進められている。これらの詳細は次項に記す通りである。

(2) 研究調査活動

A 文化財保存事業費

国有文化財保存整備費の支出委任による調査研究

重要文化財明治丸御座所板絵修復調査

(美術部・保存科学部と共同研究、12頁参照)

B 一般研究

1. 伝統的製作技法及び修復技術の研究

(1) 漆芸品の研究

港区三田の済海寺にある長岡藩牧野家墓所出土の内、印籠、黒漆厨子、鏡台等の漆芸品について調査した。(鈴木・中里)

小山市立博物館より修理依頼のあった石塔納入物一括は、木造十一面観音座像(高21 cm)、厨子入木造地藏菩薩立像(高15 cm)が主なものである。前者は出土時バラバラの状態であったといわれるが、搬入の際は既に修理がなされていた。この修理は完全とは云い難いものであったため解体して組直し、玉眼も汚損していたのを入直し復原した。

後者は、厨子の塗漆がまったく剥れ、形もなく解体していたものを整理し、一部欠損していた部材は新たに補って原状を復原した。(鈴木・中里)

西ドイツ・シュツツガルト市リンデン国立民族学博物館より同館蔵品の中国漆器の修理依頼が北村謙一氏(奈良)、中島淑枝氏(東京)にあり、中島氏分については研究所が協力することとし、3年計画の今年度分として11点が修理アトリエに搬入された。当部では保存科学部の協力も得て、X線透視、写真撮影、技法調査を行い、又修理過程の記録作成も行っている。ヨーロッパにおいて既にワックスによる修理がなされているものも多く、修理に際し大きな障害となっている。(中里)

社寺等古建築の外装化粧材料としての漆塗膜の基材(木部)への密着強度(実際には漆塗膜自体の凝集力)とその耐久性の平面引張り強度試験による実験的研究を継続的に行っている。耐久度の判定には劣化促進処理(温冷水処理、煮沸処理、ウェザーメーター処理、屋外曝露処理)を用いている。試験片としてはヒノキ及びブナ材に実際に文化財建造物の修理を行っている漆塗装技術者あるいは漆芸家が漆塗装したものをを用いている。(西浦)

(2) 出土金属工芸品の製作技法の研究

現在までに得られた古代象嵌技法の知見にもとづき、その技法の復原を試みた、また水銀アマルガムによる各種鍍金法についても記録を行った。(鈴木・青木)

(3) 装潢技法の研究

伝統技術としての装潢技法に関する調査研究を継続している。本年度からは、正倉院蔵屏風の調査と関連して、屏風製作に関する技術用語の収集を始めた。製紙に関連した古代の技術のうち、「打紙」について文献による年表の作成等を行った。古写経料

調査研究

紙の繊維を観察するためのプレバートは、数点ずつでは有るが、継続している。これは、製紙技術の変遷を知るための基礎作業である。(増田)

装潢技術及び書画の素材としての紙絹に関する中国文献の調査、研究を行った。(鶴田)

中国における図書の防蠹法に関して調査を行った。(鶴田)

2. 合成樹脂による彩色保存の研究

(1) 重要文化財 浅間神社拝殿の襖仕立の天井絵(約1.5間×1.5間)12面をとりはずして修理をすることになったが、画面の損傷が著しいため合成樹脂による応急的剝落どめが必要となり、現地指導を行った。水溶性アクリル樹脂と溶剤性アクリル樹脂(B-72)による剝落どめを比較検討した結果、パラロイドB-72の4~6%トルエン溶液で剝落どめを施し、更にその上からレーヨンペーパーをふのりを用いて養生貼りして安全に取りはずすことができた。しかし、とりはずした絵の保管中にカビが生え、その防止が容易ではなかった。(樋口)

(2) 栃木県小山市立博物館に寄託されている安房神社所有の「東北鉄道開通記念絵馬」は、明治19年の製作で、保存科学部の顔料分析によると、胡粉下地の上にブルジャンブルー等を用いて描かれたものであることが判明した。この板絵の顔料の粉化および層状剝離に対し、アクリルエマルジョン(プライマルAC-34)を用い、剝落どめを実施した。(茂木)

(3) 岐阜県恵那郡岩村町立郷土資料館々員に対し、絵馬彩色剝落どめの技術的助言を行い、「七福神之図」「日之出鶴」等8点の絵馬の彩色剝落どめを実施した。使用した接着剤は、アクリルエマルジョン(プライマルAC-34)、水溶性アクリル樹脂(バインダー18)、フノリ。一部にかなりの微の発生が見られたので丹念に除去した後、生物研究室の指導を得て、チモール10%のエタノール溶液吹付の防黴処置も実施した。(茂木)

3. 木造文化財の合成樹脂による修復技術の研究

本年度は三件の木造建造物の合成樹脂による修理を指導した。鹿児島市の史跡 磯庭園正門の半解体修理に際し、外観上異状はないが内部が白蟻による虫害でほとんど空洞化した樟材の柱3本と梁1本の樹脂加工による修理を指導した。損傷材の側面を蓋割りして内部を抉りとりて厚さ2~3cmの殻状にし、その中に構造荷重に耐える松

の角材を芯材として挿入した後、古材の殻と芯材との間隙にガラスマイクロバルーン混入エポキシ樹脂を注入して接合した。また間隙の大きい箇所には硬質発泡ウレタンを充填した。(樋口)

徳島県の重要文化財 旧小妥家住宅の解体修理では、小屋梁(長さ約 930 cm, 断面 27cm×34 cm)が腐朽と白蟻の蝕害で長さ方向に約 1/4 程度にわたって内部が崩壊していた。この修理では崩壊した部分の上端を蓋割りして内部を清掃し、崩壊した部分に相当する新たな芯材を入れて、残存する健全な芯材にエポキシ樹脂を接着剤として重ね継ぎし、外皮と芯材との間隙には硬質発泡ウレタンを充填し接合した。また外皮の破損部分は、FRPの内張りとアラルダイトXN-1023によって補修した。(樋口)

横浜三溪園に重要文化財 旧燈明寺本堂が再建されることになったが、解体保管中に著しく腐朽損壊した松材の外陣虹梁 2 丁、檼材の柱 2 丁の合成樹脂による修復が本年度から来年度にかけて実施される。今年度は大斗等の組物の一部を修復したが、腐朽部分はすべて抉りとった後、欠損部は新材をガラスマイクロバルーン混入エポキシ樹脂で接合して整型した。また、虹梁は腐朽部分にウレタン樹脂を含浸して強化した表面層だけを標本的に切りとり、これを伊藤所長の指導で強度計算した新材に象嵌するように接着する予定である。(樋口)

4. 石造文化財の修復処置に関する研究

東京都青梅市成木熊野神社の石造扁額は当社の石造鳥居(文政 2 年建立銘)にかかけられていたが、大正 6 年鳥居の倒壊とともに損壊し、その後補修されたが、再び損壊して 11 箇の破片に分断されていた。破片の 1 部は熔融硫黄をもって成形色合せして欠失部分を補足していた。修復にあたって、この硫黄擬石の部分はそのままとし、各破片の表面を十分に清掃した後、エポキシ樹脂(アラルダイトCY-230, 硬化剤エポメート B002)に添加剤を加えて粘度を調整したもので接合し、欠損部分は樹脂擬石で補足して硬化後擬石表面を鑿で削って成形した。更に全体にアルキルアルコキシシラン系強化剤(SS-101)を塗布含浸して仕上げた。(樋口・鈴木)

史跡 尚古集成館(鹿児島市)の望嶽樓の土間に敷きつめられた唐草模様の敷瓦が最近著しく風化が進行したので、この保存処置について調査した。風化の直接原因は排水が不完全なために土間に水が溜ることであると思われ、排水を完全にしてから、劣化した瓦をアルキルアルコキシシラン系強化剤により含浸強化することが有効である

調査研究

と判断した。(樋口)

岩手県平泉町の達谷の磨崖仏(町指定)の保存処置について調査した。この磨崖仏の著しい風化の原因は、彫刻面のある岩山の裏側に深さ10mほどの谷があり、この谷に堆積した土砂が多量の水を含み、この水が岩を通して磨崖仏の表面から蒸発するとき多量の塩類を析出して岩石を風化させるものと考えられる。対策としては谷の排水が最も重要であり、その後で樹脂による強化処置をするのが適当であると思われた。

(樋口)

重要文化財 旧札幌電話交換局舎(博物館明治村)の石材修理のための樹脂処置を指導した。その破損は、明治村に移築したときのセメントモルタルによる補修部分の剝離、脱落が多かった。今回の修理では打ち継ぎ用エポキシ樹脂を補修部に予め塗布しておき、モルタル擬石で繕うようにした。また必要に応じて樹脂擬石も一部併用した。(樋口)

重要文化財 通潤橋(熊本県矢部町)は約10年前に修理されたが、通水管の接合部より漏水するようになった。この接合部の大部分は伝統的手法である漆喰を主とした特殊な目地材がつめられていたが、一部に樹脂も使われており、そこから漏水するらしいとの連絡で現地調査した。その結果、漏水箇所は修理時に漆喰目地材がつめられていた接合部の間隙が大きいため間もなく漏水し始め、それをとめるため上からエポキシ樹脂を2~3mmの厚さに流した箇所であった。その程度のことでは無効だったのである。現地の要望であった樹脂の除去は機械的に簡単に行うことができた。(樋口)

沖縄県那覇市、重文・園比屋武御嶽石門の解体修理に伴う古材(石灰岩)の修復処置として、シラン溶液(SS-101)の含浸による強化処置と、石材表面の穴に石灰岩の細粒を充填して上からアクリル樹脂(バラロイド B-72)との混合物を浸み込ませる方法による穴埋め処置についての基礎実験及び現地での実地技術指導を行った。又、古屋根材の元位置の調査、確認、棟石の劣化状態と修復方法の検討等も併せ行った。

(西浦・樋口・伊藤)

長崎県平戸市、重文・幸橋の解体修理に伴うアーチ石の強化防水処置及び笠石の修復処置について調査、指導した。アーチ石の処理は、1.8×1.2×0.8 mの鉄製水槽中に樹脂溶液を入れ、その中にクレーンで石材(平均1×0.5×0.5 m)を浸漬するという大規模なものである。基礎実験の結果、15分間浸漬を2回繰り返すことにより、効

果的に十分な含浸量が得られることがわかり、その通り実施された。尚、含浸強化処置の前に、石材の塩抜きを行なったが、ダム下流の川中に河床を掘り起して塩抜き場を作り、その中に5週間浸漬するという方法に依った。又、笠石の修復処置(接着、充填成形)は、エポキシ樹脂に適当な充填材(石粉、エロジール、ガラスマイクロバルーン等)を適宜使い分けて行った。(西浦)

北海道小樽市、重文・旧日本郵船小樽支店の修理調査工事に関して、外壁石(安山岩、凝灰岩)の劣化状態、原因、修復方法の調査検討及び必要な予備基礎実験計画の策定を行った。本石材の劣化は、凍結-融解がその主原因と考えられ、破損石材については取替えが、保存処置としてはシラン溶液(SS-101)含浸による撥水性の付与が適当と判断した。予備基礎実験は、北海道大学低温科学研究所との共同研究により、凍結-融解作用に対する耐久性を中心に種々の試験を継続中である。(西浦)

三重県津市、重文・専修寺如来堂の修理における再用大棟獅子口瓦については、シラン溶液(SS-101)の含浸処置を行う予定であるが、表面炭素部(黒色部)が消失し薄茶褐色になってしまっており、黒補色を行うべく基礎実験を継続中である。退色した丸瓦(専修寺)を試験片として、数種の樹脂に松煙を混合したもので補色し、劣化促進試験によりその耐久性を調べる事により適当な樹脂の選定を行うものであるが、現在までのところアクリル樹脂が良い結果を示している。(西浦)

5. 金属製品の修復処置の研究

鉄製品は、東京国立博物館保管大阪府カトンボ山古墳出土品、広島県大塚古墳出土短甲、千葉県大崎台遺跡出土品、長野県別所温泉將軍塚古墳出土品一括について修復処置を実施した。これらの処理を通じてイオン交換樹脂を用いた循環法による脱塩処理法を確立した。(青木)

6. 遺跡・遺物の保存に関する研究

世田谷区下山遺跡発見の石棺の移築を発泡ウレタンを利用して行った。また栃木県芳賀町芳賀遺跡住居址内の炭化カヤ材の取り上げ保存を指導した。(樋口・青木)

土層の剥ぎ取りは、茨城県三反田貝塚、神奈川県遺跡、埼玉県猿見北遺跡、川口2号遺跡など、関東ローマ、泥炭、貝塚その他など各種の土層の剥ぎ取り試験を行ったが、関東ローマ層については今後とも技術的改良を加える必要がある。(樋口・青木)

7. 国宝 高松塚壁画修理事業への協力

調査研究

昭和57年9月に行われた、壁画の保存状況点検に際して、修復作業に参加、部分的クリーニングを試みた。(増田)

C 特別研究

石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続, 第6年次, 保存科学部と共同研究, 28頁参照)

劣化した石の強化保存処置としての樹脂の含浸処理については、有効な材料、処理方法に関して多くの実験、調査を行い、広く検討し、沢山のデータの蓄積が得られている。それらの整理とより詳細な実験研究は継続して行っている。試験材料として、従来用いていた凝灰岩(大谷石)、安山岩(白河石)に加えて今年度から大理石(ギリシャ・マール)についても実験を行っている。大理石による試験は、研究の国際的評価を問い得るデータが得られるという意味で重要である。(西浦)

割損部の接着、欠損部の充填成形等の修復処置についても、その耐久性等の基礎的な実験研究及び、特に人工樹脂擬石については、作業性、コスト等を勘案した実際の調査研究を行っている。(西浦・樋口)

その他、瓦、煉瓦等類似製品についても、石に準じた方法で、強化保存処置、修復処置についての実験研究、実地調査を行っている。(西浦)

D 受託研究

1. 仙台伊達家三代綱宗公墓所発掘に伴う保存科学的調査研究(宮城)(保存科学部と共同研究, 30頁参照)

出土した遺物のうち、脇差、和バサミを埋もどしのため応急処理をした。脇差はX線撮影後、漆部分と刀身を分離。刀身はアクリル樹脂(バラロイド B-72)の減圧含浸によって強化した。鞘の木質はイソシアネート樹脂(PSNY-10)にて強化、漆膜は木質にエポキシ樹脂(アラルダイト(Y-221, HY-837)で接着した。なお小柄は別途保存することにした。

和バサミはアクリル樹脂(バラロイド B-72)で減圧含浸強化し、破片をエポキシ樹脂で接着した。

2. 福岡県重文「福岡浦鰯漁図」絵馬の修復研究。

本絵馬は安政4年(1857)に奉納された、145 cm×222 cmの比較的大型に属する絵馬である。鯛の地引網に湧き上る多勢の人々の表情も豊に描かれている。全体に施された胡粉下地の層は薄く層状剝離は少なく、粉状に老化している。背景を成す山々のみかなり厚手の層で層状剝離である。画面の中央に広い面積を占める海は薄手の胡粉下地に群青をのせているが、ほとんどの群青が粉状に剝落して胡粉下地が露出し白い海となっている。他は200人を越す人々の衣服等の顔料が多彩であるが、剝離も多く見られた。処置としてはアクリルエマルジョン(プライマル AC-34)の約7%, 15%, 30%の溶液やフノリ液を準備し彩色の種類に応じて含滲・注入を行い圧着した。周囲にしみ等を生じないよう水性アクリル樹脂(バインダー-18)の約3%溶液を噴霧した。

3. 鉄造茶釜「永正二年銘」の保存修復に関する研究(山口)

胴経48.5 cm, 総高42.0 cmにおよぶ鉄造のいわゆる真形釜で胴上半に銘文文字を鋳出す。銘文部分など釜全体に錆が鱗片状に剝離しており、また口辺および胴下部に大きな欠失部分がある。

釜全体を強化するため樹脂を含浸させる必要があったので、新しい減圧含浸法としてシリコンラバーを用いた殻構造の特殊減圧含浸法を開発し、これによってパラロイドB-72を減圧含浸して釜を強化した。欠失部はエポキシ樹脂FRPで補修した。

4. 出土銅造仏の保存修復処置の研究(東京)

(保存科学と共同研究)

この銅造仏は、武蔵国分寺発掘調査に伴う道路状遺構内から出土した全高30.0 cmの奈良時代の観音菩薩立像である。鋳銅製で、火をうけたためか鍍金が見られず、割れた脚部断面を見ると砂つぶ大の粒子が固っており、触れるとくずれてしまう状態であった。

構造調査—セシウム137を12時間照射して撮影した結果、中型が腰あたりまでしかなく、髷の多い構造であることがわかった。

材質分析—放射化分析の結果、銅を主成分とし、不純物程度他物質を含むこと、また鉛同位体比分析によって日本産の銅を使用していることが判明した。X線回折で錆を分析したところ塩基性塩化銅が確認された。

修復—機械的方法で泥や錆を除き、60°C程度の温水で脱塩処理を行った。乾燥後

調査研究

ベンゾトアゾール 3 % アルコール溶液を減圧含浸して塩化銅の安定化処理をした後、アクリル樹脂(インクララック)を減圧含浸して仏像を強化した。破片はエポキシ樹脂で接着復原した。

E 科学研究費

昭和55年度より開始された文部省科学研究費特定研究「古文化財に関する保存科学と人文、自然科学」の第3年次で、研究課題の統合が行われ、当研究所修復技術部関係の研究課題および研究代表者、分担課題および分担者は下記の通りである。

1. 建造物・美術工芸品の劣化現象と保存修復に関する研究 代表者 伊藤 延男

(1) 文化財建造物の構造力学的研究 総括 伊藤 延男

古建築構造部材接合部の力学的研究 西浦 忠輝

2. 水中遺構・遺物等の探査および保存に関する研究 代表者 茂在 寅男

(1) 水中遺物の材質およびその劣化

水中金属遺物の保存に関する研究 青木 繁夫

3. 遺構・遺物の探査および保存修復に関する研究 代表者 田中 琢

(1) 遺構断面層序の剥ぎ取り保存および貝層断面の保存法 総括 樋口 清治

遺構保存処理および考古学的検討 青木 繁夫

4. 遺構・遺物の探査および保存修復に関する研究 代表者 田中 琢

(1) 石造文化財の保存・修復に関する研究 総括 鈴木 友也

5. 近代百年中国画家資料の収集と研究 一般研究(C) 研究者 鶴田武良

従来、日本は勿論、欧米、中国においても未開拓の分野であった近百年來中国絵画研究の基礎資料として、1920年代、30年代を中心とする民国期刊行図書及び雑誌から画家カード、絵画関係事項カード約20,000枚を作成し、漢字筆画順に整理した。また大阪橋本家、岐阜高橋家、兵庫司馬家等収蔵の近代中国絵画について写真資料の作成を行い、各画家の画風の展開、画壇の動向を考察する資料とした。また、画家の活躍期、字号等に関する資料としても役立てることができた。

6. 情報資料部

(1) 概 要

情報資料部は、従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成、収集、整理、保管等の業務を充実発展させ、さらに研究所各部の所掌にかかる資料を対象とすることを目的として昭和52年4月に発足した。

当部の収集する諸資料ならびに情報は直接間接に文化財行政に寄与するものであるが、また同時に草創以来内外の研究者の利用に供して、文化財に関する研究資料センターの役割を果し、多大の支持を得て今日に至っている点も特記される。

当部研究員はこれらの業務を分担遂行するとともに各専門領域における調査研究を進め、その成果を機関誌「美術研究」ほか専門誌、学会誌、毎年開催される公開学術講座その他の研究集会等で発表している。

文献資料研究室

各種研究資料の収集、整理、保管、閲覧等の業務を行うとともに、毎年、日本・東洋古美術に関する雑誌論文及び単行図書を分類集録した文献目録を編纂し、美術史学界はじめ関連学界に貢献している。定期刊行物所載古美術関係文献については前回の昭和11～40年の目録に引続き、昭和41年以後の目録作成準備を続行中である。

これらの業務のほか、当室研究員は、日本・東洋古美術各分野で、専門的調査研究を進めてその成果を公表しているが、今年度は別掲の科学研究費による研究を担当・分担し、また落款・印章に関する特別研究に参加した。

写真資料研究室

研究用写真資料の作成、収集、整理、保管、閲覧を行うとともに、各研究者の調査研究活動に協力して研究資料を撮影し、資料の充実につとめた。また、これに平行して、美術研究所当時に撮影したガラス製写真原板の転写を昨年度に引続き実施した。

こうした作業のほか、当室研究員は、古美術研究の分野で専門的調査研究を進め、その成果を公表し、また別掲の科学研究費による研究及び特別研究に参加した。

調査研究

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 日本古代中世絵画史の研究

(1) 仏教絵画研究

滋賀県常楽寺蔵釈迦八相図をはじめ、千葉県安興寺蔵仏涅槃図など3点の仏涅槃図の調査。(関口)

(2) 科学的方法による材質技法の研究

特定研究「古代中世における絵画彫刻染織品の材質技法に関する科学的研究」(代表者 柳澤孝)に参加し、法界寺阿弥陀堂柱絵を調査した。(関口)

(3) 経巻荘嚴画研究

延暦寺蔵紺紙銀字法華経、松平頼明氏蔵法華経、善導寺蔵観普賢経、善通寺蔵一字一仏法華経などの荘嚴画を調査研究した。(江上・米倉)

(4) 中世絵画史研究

科学研究費(一般研究A)に関連して京都泉涌寺の寺宝並びに北九州地区浄土系寺院の寺宝調査を行った。また特別研究に関連して、鎌倉時代の年紀をもつ絵画作品について資料収集を行った。(宮・江上・関口)

(5) 絵巻研究

諸家分蔵の浄土五祖伝絵及び米国所在の因果業鏡図、個人蔵のざれ絵について調査を行った。(宮)

(6) 高僧伝記絵の研究

法然上人伝絵の調査研究を継続。本年は所謂「弘願本」(知恩院蔵本、堂本家蔵本)と大阪市立博物館蔵本の調査を行うと共に、法然上人伝絵諸本の系統研究を進めた。また法然上人伝絵との関連で善導寺蔵「法然上人画像」の調査を行った。

更に別掲の科学研究費による「大和絵摸本の研究」により本年度は東京芸術大学蔵住吉家粉本、京都市立芸術大学蔵土佐家摸本の調査を行ったが、特に中世絵巻関連資料の中から「遊行上人縁起」などについて新知見を得ることができた。(米倉)

2. 日本近世絵画の研究

(1) 近世初期障壁画の研究

聚光院、高台寺、智積院、天球院など京都の寺院の障壁画作品の調査を行った。

(鈴木)

(2) 江戸時代絵画の研究

東京在住の個人コレクションの作品の調査ならびに徳本寺蔵の宋紫石関係資料の調査を行った。(鈴木)

(3) 中部地方の近世絵画の研究

総合研究(A)「中部地方の近世絵画」(研究代表者 名古屋大学文学部 河野元昭)に参加し、福井県、石川県、長野県の社寺、美術館等所蔵の近世絵画の調査・研究を行った。とくに岩佐又兵衛の作品および関連資料について新知見を得た。(鈴木)

(4) 在米近世絵画の調査研究

ボストン美術館主催の「日本絵画に関するシンポジウム」に出席し、同館所蔵の近世絵画、および室町水墨画について、これを親しく調査する機会を得た。また、シンポジウム閉会后、サンフランシスコ東洋美術館にて狩野派および中世漢画派の障壁画作品の調査を行った。(鈴木)

(5) 泉涌寺所蔵の近世障屏画の調査

科学研究費(一般研究A)による京都泉涌寺の宝物調査に同行し、同寺伝来の近世障屏画作品の調査を行った。(鈴木)

3. 東洋古代絵画研究

(1) 敦煌絵画研究

大英博物館編纂の所蔵敦煌画図録刊行に協力し多くの新知見を得るとともに著者と意見交換、修正提案を通じて敦煌画の体系化をはかった。(上野)

(2) 西域古代絵画史研究

キジル・アスターナを中心に、資料と情報の収集を継続している。(上野)

4. 東洋古代文様史研究

舶載紙と思われる誓願寺蔵孟蘭盆縁起に使用の唐紙の文様などを技法的、様式的観点から調査研究した。(江上)

5. 中国絵画の研究

調査研究

10月に北京故宮博物院および上海博物館を訪れ、所蔵品調査の機会を得た。特に中国絵画が日本の室町水墨画、近世初期絵画に与えた影響を検討、考察するうえで重要と思われる作品を寓目することができ、多くの収穫が得られた。(鈴木)

6. 東洋美術の地域間交流に関する文献資料の研究

引続き関係文献の調査・収集・研究を行うとともに、昨年度開催されたシンポジウムの報告書「東アジアにおける美術交流」を編集刊行した。(上野・江上・米倉)

B 特別研究

「落款・印章・賛文・銘記の研究」 (研究代表者 情報資料部長 宮 次男)

研究目的

本研究は、わが国の中世・近世・近代の絵画・書蹟・彫刻等のうち、落款・印章・賛文・銘記を有する作品を対象として、これらの資料を極力調査収集し、その基礎資料によって、作品の鑑別、真偽判定等を行い、作家研究を推進するものである。

実施要領

1. 中世以降、近世までの彫刻及び絵画作品にみる銘記、賛文資料を収集整理して研究を行う。
2. 本研究所が現在所蔵している近世画家の落款・印章の写真資料をさらに充実することにより、研究の進展をはかる。
3. 近代美術の分野では、明治以降主要日本画家の印譜作成を行い、洋画家については主要作品のサイン写真の収集に務める。
4. この研究は美術部情報資料部の共同研究により遂行するものである。

C 科学研究費

「中世美術における伝統と大陸影響とに関する実証的研究」

(一般研究(A) 代表者 宮 次男)

分担課題

- (1) 肖像絵巻にみる宋元画の摂取(宮・真保)
- (2) 仏画における大陸影響とその対応(柳沢・関口)

(3) 唐紙意匠の導入と影響(江上)

(4) 渡来仏像と頂相彫刻(猪川)

(5) 舶載染織品と伝法衣(田実)

本研究は、わが国中世美術のもつ諸要因、すなわち、平安時代に形成された和様、奈良時代様式への志向、大陸美術の影響など、中世美術を形成するための基本構造を作品に即して、明らかにするものである。この目的に沿って、京都・泉涌寺の総合調査をはじめ、北九州地区の福岡・善導寺、誓願寺、久留米・善導寺、大分・岳林寺の中世絵画、彫刻類の調査を行った。

またこのほか、個々の作品として、彫刻では清涼寺式釈迦像をとりあげ、大阪・延命寺、釈尊寺、奈良国立博物館、福岡・小沢氏、大興善寺、京都・浄福寺、聖光寺、光照院、善導寺の諸像の調査を行った。

絵画関係では、京都・東寺蔵両界曼荼羅乙本、東京・個人蔵孔雀明王像、奈良・春日大社蔵春日曼陀羅、春日御験記台、鎌倉・光明寺、大阪・藤田美術館、久保惣美術館、京都・北村家に分蔵の浄土五祖絵、東京・個人蔵西行物語絵、さらに經典関係として、滋賀・延暦寺蔵紺紙銀字法華経、香川・善通寺蔵一字一仏法華経序品、東京・松平頼明氏蔵法華経8巻の調査を行った。

さらに、新資料の情報を得るために、地方自治体指定の文化財目録及び文化財に関連する図書・出版物に関する情報の収集を行い、その集積を続行している。

「近年における日本・東洋美術史研究の動向に関する研究」

(一般研究(B) 研究代表者 上野アキ)

第二次大戦後日本における東洋・日本美術史研究は飛躍的な発展をとげたが、同時に欧米における美術史研究も、特に東アジアすなわち中国・日本・朝鮮に関して著しい進展を示した。また中国及び韓国においては全く新しい体制のもとに出発し、同様の発達を見せている。これらは研究者の増加、新しい調査方法の採用、新発見、相互交流など、様々な要因に基づくものと考えられる。本研究の担当者、分担者はそれぞれの専門分野を中心に、当研究所の美術史部門でそれら情報の収集につとめて来たが、戦後40年近いこの時期に過去4分の1世紀を中心として、資料や情報に整理を加え、近年における日本・東洋美術史研究の動向に関して、方法論的な発展の跡を多角的に分析検討しようとするものである。

調査研究

本年度は定期刊行物所載日本東洋美術史研究文献に関するデータの整備拡充につとめ、あわせて単行図書ならびに中国・韓国及び欧文献に関するデータの収集を行った。

「大和絵模本の研究」

(一般研究(C) 研究代表者 米倉迪夫, 研究分担者 江上 綏)

現在各所に様々な作家や流派による模本・画稿資料が残されているが、一部を除き注目される機会も少ない。しかしそれらは作家・流派の関心の所在、古画学習・伝習の実態、作品の制作過程、原作品に関わる情報などを知ることのできる貴重な資料である。当研究はこのような模本・画稿資料の重要性に着目し、昭和56・57年度にわたり、対象を大和絵資料に限定して調査研究を進めた。昨年度の金刀比羅宮蔵為恭田蔵模本コレクションに引き続いて本年度は東京芸術大学蔵住吉家粉本、京都市立芸術大学蔵土佐家模本のコレクションの調査研究を進め、同時に全作品の写真資料作製に努めた。

7. 主要研究業績

①：著書 ②：論文 ③：解説 ④：研究発表 ⑤：講演・放送 ⑥：その他

昭和57.4～昭和58.3

伊藤 延男(所長)

① 文化財保存と国際交流 「文化庁月報」 57.12

① 日本の石塔 「日本古寺美術全集6」集英社 58.1

① 「木造文化財の保存に関する国際研究集会」の意識と成果

「月刊文化財」第一法規 58.2

① 小仏堂の空間 「日本古寺美術全集18」集英社 58.3

⑤ 日本人と木の文化 朝日ゼミナール 58.2

主要研究業績

美術部

真保 亨(美術部長)

- ① やまと絵の四季 「花鳥画の世界1」学習研究社 57. 11
- ① 光琳の工芸図案帖 岩崎美術社 58. 1
- ① 光琳の鳥獣写生帖 岩崎美術社 58. 1
- ② 平安時代の絵巻における草花表現 「美術と草花」集英社 57. 11
- ② 江島縁起絵巻 三浦古文化32 57. 11
- ② 三十六歌仙絵(書伝為相筆) 美術研究323 58. 3
- ③ 吉野山図屏風(渡辺始興筆) 月刊文化財223 57. 4
- ③ 付喪神絵巻他 「御伽草子絵巻」角川書店 57. 5
- ③ 慈恩大師立像(大英博物館蔵) 「慈恩大師御影聚英」法蔵館 57. 11
- ④ 江戸大美術展 東京国立文化財研究所総合研究会 57. 5
- ④ 三十六歌仙絵巻 美術部・情報資料部研究会 57. 12
- ⑥ 江戸大美術展報告 月刊文化財223 57. 4
- ⑥ 等伯と障壁画(講演要旨) 等伯2 58. 3

田村 悦子(主任研究官)

- ② 親鸞の、特に坂東本『教行信證』の筆蹟について 下 美術研究320 57. 6
- ③ 上宮聖徳法王帝説・三十六人家集・熊野懷紙・親鸞自筆書状類の内、今御前の
母宛・親鸞筆坂東本教行信證・一念多念文意
「日本古寺美術全集21・本願寺と知恩院」集英社 57. 5

猪川 和子(主任研究官)

- ⑤ 仏像概説 新潟県柏崎市公民館 57. 5
- ⑤ 密教時代の開幕と木彫の隆盛 朝日カルチャーセンター横浜 57. 7
- ⑤ 唐風より和風の彫刻へ 朝日カルチャーセンター横浜 57. 7
- ⑤ 飛鳥・白鳳時代の彫刻 世田谷区老人会館 57. 8

田実 栄子(主任研究官)

- ① 武家の染織(共著) 中央公論社 57. 12
- ① 染織・服飾(共著) 「日本の美術11」第一法規 58. 2
- ③ 戦国時代の服装 「別冊歴史読本」新人物往来社 58. 3

調査研究

- ⑤ 上杉謙信所用袖小袖 井筒工芸染織館 57. 9
- ⑤ 江戸から明治・大正の小袖 朝日カルチャーセンター横浜 58. 1
- 柳澤 孝(第一研究室長)
- ② 異色ある孔雀明王画像 美術研究322 57. 12
- ② 科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究(三浦と共同)
特定研究「古文化財」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ③ 平安前期の二大両界曼荼羅 アサヒグラフ「弘法大師と密教美術」 58. 3
- ④ 鎌倉時代の四天王について
ボストン美術館主催「日本絵画に関するシンポジウム」 57. 11
- ④ 赤外線テレビによる日本古代中世絵画の研究—特に法界寺柱絵を中心に—(三浦と共同)
特定研究「古文化財」研究会 58. 3
- 増田 勝彦(第一研究室)
- ② 製紙に関する古代技術の研究(Ⅱ)—打紙に関する研究— 保存科学22号 58. 3
- ⑤ 保存修復用資材としての和紙製造の問題点
第12回文化財保存修復研究協議会 58. 3
- ⑤ 表具工程とそれに使用される和紙 第4回細川紙技術保存研修会 58. 3
- 関 千代(第二研究室長)
- ③ 夏の女 太陽232 57. 5
- ⑤ 近代の画卷 第16回美術部・情報資料部公開学術講座 57. 12
- 三輪 英夫(第二研究室)
- ② 洋風画法による花鳥画—秋田蘭画を中心に—
「花鳥画の世界8・幕末の百花譜」学習研究社 57. 7
- ② 国沢新九郎の画歴と作品 美術研究321 57. 9
- ② 日本風景図から風俗図へ 「肉筆浮世絵10」集英社 58. 2
- ③ 小田野直武筆鷹図ほか25点
「花鳥画の世界8・幕末の百花譜」学習研究社 57. 7
- ③ 作家略歴・青木繁ほか30名 「日本水彩画名作全集6」第一法規 57. 8
- ③ 岩橋教章筆鴨図 美術研究321 57. 9
- ③ 久米桂一郎年譜 「久米美術館」久米美術館 57. 10

主要研究業績

- ③ 久米桂一郎と久米美術館 「久米美術館」久米美術館 57. 10
- ③ 久米美術館の開館とその意義 絵224 57. 10
- ③ 作家略歴・三宅克己ほか18名 「日本水彩画名作全集7」第一法規 57. 10
- ③ 作家略歴・石井鶴三ほか31名 「日本水彩画名作全集8」第一法規 57. 11
- ③ 司馬江漢筆七里ヶ浜図ほか10点 「肉筆浮世絵10」集英社 58. 2
- ④ 国沢新九郎と岩橋教章 美術部・情報資料部研究会 57. 7
- ⑤ 久米美術館 NHK・TV「日曜美術館」 58. 2
- 佐藤 道信(第二研究室)
- ③ 河鍋晩斎筆花鳥図, 松林桂月筆春宵花影図ほか26点
「花鳥画の世界9・伝統と近代装飾」学習研究社 57. 5

芸 能 部

三隅 治雄(芸能部長)

- ① 九州・沖縄(日本の祭り8)<編著> 講談社 57. 9
- ② 芸能一韓国と日本一<草野妙子との討論>(日本とアジア・生活と造形第4巻)
学生社 57. 6
- ② 行動伝承としての民俗芸能(まつりと芸能の研究Ⅱ)
まつり同好会20周年記念刊行会 58. 2
- ② 劇的形象の形成と日本人の宗教意識 日本風俗史学会誌「風俗」74 58. 3
- ③ 伊那谷の祭りと生活 「信濃路」38 57. 5
- ③ 地域文化の在り方 「新潟県教育月報」33の5 57. 8
- ③ 沖縄芸能の歴史と現状 「文化財月報」168 57. 9
- ③ 沖縄芸能総論(沖縄のこころとかたち) 文化庁芸術祭執行委員会 57. 10
- ③ 農村歌舞伎と大鹿歌舞伎(大鹿歌舞伎) 銀河書房 57. 10
- ③ まればとを迎える宴 「季刊 is」19 57. 12
- ③ 房総のまつり(房総のまつり) 千葉県教育委員会 58. 3
- ③ 房総の民俗芸能(房総の文化財) 学研 58. 3
- ④ 日本の民俗芸能 東京国立文化財研究所総合研究会 57. 9
- ④ 芸能研究の現状と課題 一芸能技法の問題一

調査研究

- 法政大学第7回国際シンポジウム「沖縄文化の古層を考える」 57.10
- ⑤ 日本の民俗芸能 上越教育大学・上越市 57. 5
- ⑤ 紀伊の民俗芸能 御坊市文化財研究会・和歌山県教育委員会 57. 5
- ⑤ 祭りの伝承と現代 東京都職員研修所 57.10
- ⑤ 伊那谷の芸能 説話・伝承学会 57.10
- ⑤ 八重山の来訪神まゆんがなし NHK放送博物館 57.11
- ⑤ 祭りとは芸能のはじまり 品川区教育委員会 58. 2
- ⑥ 関東ブロック民俗芸能大会の指導・解説 水戸市 57. 9
- ⑥ 近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会の指導・解説 福井県芦原町 57.10
- ⑥ 和歌山県民俗芸能大会の指導・解説 和歌山県中辺路町 57.11
- 中村 茂子(主任研究官)
- ② 村や町の念仏芸能 「日本古典音楽大系」第一巻 講談社 57.10
- ② 古い唄の生命 「みんよう文化」No. 53 57.11
- ③ 足立区の民謡を尋ねて 「みんよう春秋」No. 25 57. 5
- ③ 大鹿歌舞伎見聞記 「農村歌舞伎」 57.10
- 佐藤 道子(演劇研究室長)
- ① 東大寺修二会の構成と所作 別 「芸能の科学」13 平凡社 57.11
- ② 仏教行事の特殊な仏具 「仏具大事典」 鎌倉新書 57. 9
- ② 寺事の種類と形式 「日本古典音楽大系」第一巻 講談社 57.10
- ② 二月堂[悔過作法]の変容 「芸能の科学」13 平凡社 57.11
- ② 法会・法要に使われる音楽 「宗教と現代」 鎌倉新書 58. 3
- ④ 小観音のまつり 二月堂研究会 57.11
- ⑤ 伝統芸能の源流 青山グリーンアカデミー 58. 3
- 松本 雍(演劇研究室)
- ③ 音楽と舞踊 「日本古典音楽大系」第二巻 講談社 57.11
- ③ 勧進能 「国史大辞典」第三巻 吉川弘文館 57.12
- ⑥ 2月の舞台批評 能楽タイムズ 57. 4
- ⑥ 7月の舞台批評 能楽タイムズ 57. 9
- 蒲生 郷昭(音楽舞踊研究室長)

主要研究業績

- ② 長唄正本研究①～⑦(共同研究) 「邦楽と舞踊」 57.9～58. 3
- ② 「道成寺」芸能の構成 III音楽 「道成寺」 小学館 57.11
- ② 日本音楽の間 「間の研究 日本人の美的表現」 講談社 58. 1
- ③ 日本音楽関係項目 「音楽大事典」 第三巻, 第四巻 平凡社 57.4, 57.11
- ③ 邦楽用語辞典 理論用語編(2)～(5) 「季刊邦楽」31号～34号 57.6～58. 3
- ③ 黎明・雨の四季, 連獅子・梅の栄 クラウンレコード 57.6, 58. 2
- ③ 雅楽・声明・琵琶楽の邦楽における位置と特色, 鑑賞の手引き体系的な鑑賞法,
曲目解説(落花の雪, 形見の桜, 城山, 川中島, 石童丸, 敦盛, 菅公, 扇の的), 声明の
旋律型 「日本古典音楽大系」第一巻 講談社 57.10
- ③ 娘七種・白妙・虚無僧 第4回千寿の会プログラム 57.10
- ③ 能班女・独吟鞍馬天狗・能羽衣の音楽構造
「日本古典音楽大系」第二巻 講談社 57.11
- ③ 汐汲・吾妻八景・外記節猿・三曲糸の調・正札付根元草摺
国立劇場邦楽鑑賞会プログラム 58. 1
- ③ 邦楽重要図書解題 俗楽旋律考・近世邦楽年表 「季刊邦楽」34号 58. 3
- ④ 三味線と三味線音楽 芸能部連続研究発表会 57.7
- ⑤ 能の囃子の特色 朝日芸能文化サロン 57. 6
- ⑤ 舞楽の音楽 その技法(加納と共同) 芸能部公開学術講座 57.12
- ⑥ 東洋音楽研究 第47号 町田佳声先生追悼号(遺稿共同校訂等と編集) 57. 8
- ⑥ 日本古典音楽大系 第二巻(共同編集) 講談社 57.11
- ⑥ 続田辺尚雄自叙伝(共同編集) 邦楽社 57.12
- 横道萬里雄(音楽舞踊研究室)
- ② 雅楽と寺事の打楽器 「日本古典音楽大系」第一巻 講談社 57.10
- ⑤ 能と狂言 NHK文化センター 57.4～6
- ⑤ 世阿弥の能楽論 NHK文化センター 57.9～12
- ⑤ 演能の流れ・新たな出発 能楽鑑賞の会 57.12
- ⑥ 野上豊一郎の能三部作 「図書」岩波書店 57. 9
- ⑥ 日本古典音楽大系 第一巻(編集) 講談社 57.10
- ⑥ 能・雲林院(復活上演協力) 法政大学記念能 57.10

調査研究

加納 マリ(音楽舞踊研究室)

- ⑤ 舞楽の音楽 その技法(蒲生と共同) 芸能部公開学術講座 57.12

羽田 組(民俗芸能研究室長)

- ② 「道成寺」芸能の構成 IV型と演出能・民俗芸能 「道成寺」小学館 57.11

- ③ 狂言関係項目 「音楽大事典」第三巻, 第四巻 57.4, 57.11

- ③ 能の種類と形式, 鑑賞の手引, 曲目解説(呼声・兎・細布・柳の下・三段ノ舞)
「日本古典音楽大系」第二巻 平凡社 57.11

- ③ 能楽関係項目 「演劇映画 テレビ オペラ 百科」平凡社 58.2

- ⑤ 演劇としての能 石川県立能楽文化会館 57.11

- ⑤ 大蔵流と和泉流のちがい 宝生能楽堂 57.12

- ⑥ 日本古典音楽大系 第二巻(共同編集) 講談社 57.11

仲井幸二郎(民俗芸能研究室)

- ② 越中民謡とその背景 「文学・語学」97号 58.3

- ③ 口訳民謡集 「みんよう文化」57.4~58.3

相川音頭・よさこい節・黒田節・本荘追分・謙良節・相馬土搦唄・宮城長

持唄・秋田おぼこ・ソーラン節・こきりこ節・高山音頭・真室川音頭

- ③ 民謡口訳をはばむもの 「魚津国文」2号 57.7

- ③ 「平家旅行」の話 「魚津短大古代文化研究会誌」57.9

- ③ 民謡口訳と地域方言 「魚津国文」4号 57.12

- ③ 童唄とお正月 「日本民謡協会報」205号 58.1

- ③ 民謡口訳と背景の生活 「魚津国文」5号 58.3

- ⑤ 民謡・二つの変容相 全国民謡民舞講習会(旭川) 57.6

- ⑤ 恋の民謡 日本民謡協会講習会 57.7

- ⑤ 酒と民謡 日本民謡協会講習会 57.7

- ⑤ 年齢階級と民謡 日本民謡協会講習会 57.7

- ⑤ 囃し詞と民謡 日本民謡協会講習会 57.8

- ⑤ 津軽の唄・津軽の踊 全国民謡民舞講習会(水戸) 57.9

- ⑤ 民謡のこころ 川口市音楽教育研究会 57.10

- ⑤ 越中民謡とその背景 全国大学国語国文学会秋季大会 57.10

主要研究業績

- ⑤ 北に咲く「海の民謡」 全国民謡民舞講習会(京都) 57. 11
- ⑤ 民謡の歴史的推移 文京区成人学校 58. 2
- ⑤ 「海の唄」の末流 全国民謡民舞講習会(鹿児島) 58. 3
- ⑤ 民謡の歌詞について 文京区成人学校 58. 3
- ⑥ 民謡讃歌・東京の民謡 日本民謡協会民謡民舞春季大会 57. 5
- ⑥ 日本民謡の知識Ⅲ(カセット) 日本民謡協会 57. 9
- ⑥ 夢の北前船 「魚津国文」3号 57. 9
- ⑥ 北陸・魚津と池田さん 「源流」第3号 57. 10

保存科学部

江本 義理(保存科学部長)

- ① 彩壁画片の顔料分析と保存(分担共著)
マルカタ南〔I〕 魚の丘 考古編 早大出版部 58. 2
- ② 埴輪の青灰彩色の科学分析結果 山田・宝馬古埴群 57. 12
- ② 史跡虎塚古埴彩色壁画保存に関する調査研究(受託研究報告・第51号門倉・見城・新井と共著) 保存科学第22号 58. 3
- ② ガラス製品の材質について
三雲遺跡Ⅳ 福岡県文化財調査報告書第65集 58. 3
- ② 応急処理した彩色遺物の保存に関する研究
古文化財に関する保存科学と人文・自然科学「特定研究」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ② 水中遺物の保存に関する研究
古文化財に関する保存科学と人文・自然科学「特定研究」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ③ 110年目の開陽丸—水中遺物の保存科学 自然 37-10 57. 10
- ③ 古文化財の分析化学(山崎と共著) ぶんせき 通巻95 82-11 57. 11
- ③ 大気と緑青(保存科学と銅Ⅰ) 銅 No. 37 57. 12
- ③ 土中でできる銅さび(保存科学と銅Ⅱ) 銅 No. 38 58. 3

調査研究

- ④ 応急処理した彩色壁画片の保存 特定研究「古文化財」研究会 58. 3
- ⑤ 保存科学概論 指定文化財展示取扱講習会 57. 7
- ⑤ 文化財の材質と劣化 第4回文化財虫被害保存研修会 57. 9
- ⑤ 保存科学概論 昭和年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修会 57. 10

門倉 武夫(主任研究官)

- ② 緑青成分分析による大気汚染解析(加藤・秋山と共著)
古文化財の科学27号 57. 12
- ② 史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究(江本・見城・新井と共著)
保存科学22号 58. 3
- ④ 壁画古墳石室の公開時における環境保全(見城・新井・江本と共同)
第4回古文化財講演大会 57. 5

石川 陸郎(主任研究官)

- ② 石造文化財の凍結・融解による破壊に対する覆屋の効果 一 大谷磨崖仏における測定例一
古文化財の科学27号 57. 12
- ② 古楽器への光学的手法による調査例 雅楽界第57号 57. 12
- ② X線解析写真測量の文化財への応用について 一 地獄門への応用一
保存科学第22号 58. 3
- ④ 浄土寺阿弥陀三尊の視覚的環境 一 自然照明による堂内光景の変化について一
第4回古文化財講演大会 57. 5
- ④ X線解析写真測量の古彫刻への応用 日本写真測量学会 57. 5
- ⑤ 文化財の保存環境 一 温湿度調整, 照度調整一
第4回指定文化財展示取扱講習会(東日本ブロック)文化庁 57. 7
- ⑤ 博物館建設のための保存科学からみた概念
文化財保存管理講習会(岩手県) 58. 1

馬淵 久夫(化学研究室長)

- ② 鉛同位体比からみた銅鐸の原料(平尾と共著) 考古学雑誌第68巻第1号 57. 6
- ② 古代東アジア銅貨の鉛同位体比(平尾らと共著) 考古学と自然科学第15号 58. 1
- ② 鉛同位体比法による漢式鏡の研究(二) 一 西日本出土の鏡を中心として一
(平尾と共著) MUSEUM382号 58. 1

主要研究業績

- ② 青銅製遺物の材質と技法の研究(樋口らと共著)
文部省科学研究費 特定研究「古文化財」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ③ 時代を測る ―元素合成から人類史まで― 化学教育Vol. 30, No. 6 57. 12
- ③ 銅鐸の鉛 銅 No. 38 58. 3
- ⑤ 時代を測る ―元素合成から人類史まで― 化学教育講習会 58. 3
- 見城 敏子(物理研究室長)
- ① 縄文文化の研究 第7巻(鈴木らと共著) 雄山閣 58. 3
- ② 文化財の長期保存に関する研究(第2報) 出土遺物等の保存への BO-PVA フォルムの応用 保存科学22号 58. 3
- ② 史跡虎塚古墳彩色壁画保存に関する調査研究(受託研究報告第51号)(江本らと共同) 保存科学22号 58. 3
- ⑤ 環境の文化財に及ぼす影響 文化財虫菌害保存対策研修会 57. 9
- ⑤ 文化財の保存環境 千葉県博物館職員研修会 57. 9
- 三浦 定俊(物理研究室)
- ② 石造遺跡の凍結・融解による破壊と樹脂による 防止効果の 実験(福田・西浦と共著) 雪氷第44巻2号 57. 6
- ② 石造文化財の凍結・融解による破壊に対する覆屋の効果 ―大谷磨崖仏における測定例(富沢・石川と共著) 古文化財の科学27号 57. 12
- ② 石造遺跡の凍結破壊と樹脂によるその防止効果の実験(福田・西浦・松岡と共著) 保存科学22号 58. 3
- ② シングア라운드式音速測定法による岩石凍結・融解破壊の判定(福田・西浦と共著) 保存科学22号 58. 3
- ② X線解析写真測量の文化財への応用について(呉屋・金子・石川と共著) 保存科学22号 58. 3
- ② 科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究(柳沢らと共著) 特定研究「古文化財」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ② 紙の劣化機構の解析と復元化に関する研究(門屋・白田らと共著) 特定研究「古文化財」昭和57年度年次報告書 58. 3
- ② 神々の遺跡を守る化学者たち 化学と工業第36巻3号 58. 3

調査研究

- ④ 古代ガラス玉の屈折率の非破壊測定法 第4回古文化財講演会大会 57. 5
- ④ 古代ガラス玉の屈折率の非破壊測定法 第21回SICE学芸講演会 57. 7
- ⑤ 博物館内環境について 第4回指定文化財展示取扱講習会 57.10
- 新井 英夫(生物研究室長)
- ① 微生物の滅菌・殺菌・防黴技術(共著) 衛生技術会 57. 7
- ② 文化財の長期保存に関する研究(第2報)出土遺物等の保存へのBO-PVAフィルム
の応用(見城・森と共同) 保存科学22号 58. 3
- ② 厳島神社大鳥居における海虫対策(森と共同) 保存科学22号 58. 3
- ② 史跡虎塚古墳彩色壁画保存に関する調査研究(受託研究報告第51号)(江本・門
倉・見城と共同) 保存科学22号 58. 3
- ③ わが国における文化財の生物劣化に関する研究史(I)(森と共同)
文化財の虫菌害 4号 57. 6
- ③ 文化財保存科学における生物学 韓国文化財管理局文化財研究所 57. 7
- ③ Microbial Damage of Japanese Paintings and Its Control
Text in New York University 57. 9
- ③ 紙の褐色斑病究明への細管式等速電気泳動法の試み
島津科学器械ニュース24巻2号 58. 3
- ④ 紙の褐色斑病について 第12回文化財保存修復研究協議会 58. 3
- ⑤ 建物のくん蒸と防カビ対策 建物等の防黴対策講習会 57. 4
- ⑤ 木彫仏像など文化財の燻蒸時間短縮法について(森と共同)
古文化財科学研究会講演会大会 57. 5
- ⑤ 北里研究所本館で採集した変形菌 古文化財科学研究会講演会大会 57. 5
- ⑤ 書籍・古文書等の微生物被害とその対策(第4回書籍・古文書等のむし・かび害
保存対策研修会) (財)文化財虫害研究所 57. 6
- ⑤ 文化財の生物被害と防除対策 群馬県立歴史博物館 57. 6
- ⑤ 文化財保存科学における生物学の役割 韓国文化財管理局文化財研究所 57. 7
- ⑤ 文化財の生物劣化 指定文化財展示取扱講習会 57. 7
- ⑤ 文化財の生物劣化と防除対策 東京芸術大学美術学部 57. 9
- ⑤ 博物館資料の保存処理と虫菌類対策 第1回千葉県博物館職員研修会 57. 9

主要研究業績

- ⑤ 文化財の微生物被害とその対策(第4回文化財虫徴害保存研修会)
(財)文化財虫害研究所 57. 9
- ⑤ 燻蒸処理標準仕様と危害防止措置および燻蒸効果の判定について(文化財虫菌害防除研究会, 森と共同)
(財)文化財虫害研究所・同志社大学文学部博物館学研究室共催 57.11
- ⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
(財)文化財虫害研究所 58. 2
- 森 八郎(生物研究室)
- ① 木材工学辞典(シロアリに関するすべての用語) 工業出版 57. 5
- ② 絵画の虫害とその防除措置 文化財の虫菌害4号 57.11
- ② 文化財の長期保存に関する研究(第2報)出土遺物等の保存へのBO-PVAフィルム
の応用(新井・見城と共同) 保存科学22号 58. 3
- ② 厳島神社大鳥居における海虫対策(新井と共同) 保存科学22号 58. 3
- ③ わが国における建材から発生する害虫の実態と問題点
生活と環境27巻5号 57. 5
- ③ わが国における文化財の生物劣化に関する研究史(Ⅰ)(新井と共同)
文化財の虫菌害4号 57. 6
- ③ 化学防虫剤の効用 神奈川県立博物館だより15巻3号 57. 9
- ③ 文化財に影響の少ない燻蒸剤 文化財の虫菌害5号 57.11
- ③ 家屋害虫の知識 家屋害虫13・14号 57.11
- ③ 文化財と昆虫(1) 環境衛生29巻10号 57.12
- ③ 文化財と昆虫(2) 環境衛生30巻1号 58. 1
- ③ 家屋の虫害調査法 家屋害虫15・16号 58. 3
- ⑤ 木彫仏像など文化財の燻蒸時間の短縮法(新井と共同)
古文化財科学研究会講演会大会 57. 5
- ⑤ シロアリ「お早よう広場」 NHK(TV) 57. 6
- ⑤ 書籍・古文書等を加害する昆虫とその被害対策(第4回書籍・古文書等のむし・
かび害保存対策研修会) (財)文化財虫害研究所 57. 6
- ⑤ 文化財の害虫燻蒸 群馬県立歴史博物館 57. 6

調査研究

- ⑤ 文化財の虫害と防除(第4回文化財虫徴害保存研修会)
(財)文化財虫害研究所 57. 9
- ⑤ 文化財害虫とその防除 第1回千葉県博物館職員研修会 57. 9
- ⑤ 燻蒸処理標準仕様と危害防止措置および燻蒸効果の判定について(文化財虫菌
害防除研究会, 新井と共同)
(財)文化財虫害研究所・同志社大学文学部博物館学研究室共催 57. 11
- ⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
(財)文化財虫害研究所 58. 2
- ⑤ 家屋害虫の化学的防除 日本家屋害虫学会 58. 2
- ⑤ シロアリの生態 日本しろあり対策協会関東支部 58. 2
- ⑤ 家屋内一般害虫とその防除(第18回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会)
(財)日本環境衛生センター 58. 3

修復技術部

鈴木 友也(修復技術部長)

- ② 西欧人の日本甲冑観 刀剣春秋第242号 57. 8
- ② ふるさとの文化財(工芸品) 神奈川県教委 58. 3
- ③ 解説版新指定重要文化財6 工芸品Ⅲ 毎日新聞社 58. 3
- ⑤ 古文化財における鍍金の話 古文化科学研究会 57. 11
- ⑤ 指定文化財展示取扱講習会 ―文化財の修理―
伝統技法と保存科学の適用 57. 7

中里 寿克(第一修復技術研究室長)

- ② 平安時代漆芸技法資料Ⅺ 保存科学22号 57. 3
- ② 奈良時代の漆芸 ―漆皮箱の技法― 漆文化No. 35 58. 2
- ⑤ 法隆寺物館の漆芸品 東博月例講演会 58. 9

西浦 忠輝(第一修復技術研究室)

- ② 石造遺跡の凍結-融解による破壊と樹脂による防止効果の実験(福田・三浦と共
同) 日本雪氷学会誌44巻2号 57. 6
- ② ぬき接合部の強度とその改良(第1報); くさびの材質と強度との関係

主要研究業績

- 保存科学22号 58. 3
- ② 石造遺跡の凍結破壊と樹脂によるその防止効果の実験—石造文化財の凍結-融解による劣化とその防止法に関する研究〔Ⅰ〕(福田・三浦・松岡と共同) 保存科学22号 58. 3
- ② シングアラウンド式音速測定法による岩石の凍結-融解破壊の判定—石造文化財の凍結-融解による劣化とその防止法に関する研究〔Ⅲ〕(三浦・福田と共同) 保存科学22号 58. 3
- ② 文化財建造物の構造力学的研究; ぬき接合部の強度とその改良に関する実験的研究
古文化財に関する保存科学と人文・自然科学 昭和57年度年次報告書 58. 3
- ④ 木造民家建築における水平力抵抗要素(杉山・安藤・伊藤と共同)
第32回日本木材学会大会 57. 4
- ⑥ 重文・幸橋古石材含浸強化処置に関する実験及び考察
文化庁提出, 所内報告 57. 6
- ⑥ 重文・旧日本郵船小樽支店修理に関わる調査報告書
文化庁提出, 所内報告 57.12
- ⑥ 重文・関比屋武御嶽石門修復に関する調査指導報告書(Ⅱ・Ⅲ)
文化庁提出, 所内報告 57.4, 58. 1
- 鶴田 武良(第二修復技術研究室長)
- ② 近代中国画人伝Ⅰ 張大 4・張善孖 「水墨画」20 57. 4
- ② 近代中国画人伝Ⅱ 溥心畬—最後の文人画家 「水墨画」21 57. 7
- ② 近代中国画人伝Ⅲ 黃賓虹—山水画から風景画へ 「水墨画」22 57.10
- ② 近代中国画人伝Ⅳ 任伯年—文人画から近代絵画へ 「水墨画」23 58. 1
- ③ 米国現在中国画学書解題 MUSEUM No. 379 57.10
- ⑤ 揚州八怪から任伯年へ 昭和57年度東京国立博物館夏期講座
東京国立博物館 57. 7
- ⑤ 上海の画家 太田記念美術館 57.10
- ⑥ 中国現代水墨画について(翻訳) 「水墨画」20 57. 4
- ⑥ 明清時代の防蠹紙の研究について(翻訳) 「文化財の虫害菌」4 57. 6

調査研究

- ⑥ 表具の仕方1(翻訳) 「水墨画」21 57. 7
- ⑥ 表具の仕方2(翻訳) 「水墨画」22 57. 10
- ⑥ 表具の仕方3(翻訳) 「水墨画」23 58. 1
- ⑥ 出土書画の修復について(翻訳) 「保存科学」22 58. 3
- ⑥ 中国水墨画の描法(翻訳) 日貿出版社 57. 11

樋口 清治(第三修復技術研究室長)

- ② 木造文化財建造物の修復(堀岡と共著) 木材工業 Vol. 37, No. 429 57. 11
- ② 石塔の保存, 修理にかかわる合成樹脂加工と補強, 復原
- ② Repairing of Wooden Constructed Cultural Property with Polyurethane Resin Adhesive(共同)
- International Symposium on the Conservation of Wooden Cultural Property 57. 11
- 伝徳一廟保存修理工事報告書 58. 3
- ③ 桂離宮の修復と合成樹脂 化学と工業第36巻3号 58. 3
- ⑤ 木, 金属, 石等の劣化と防止策 指定文化財展示取扱講習会 57. 7
- ⑤ 合成樹脂による文化財の保存と修復

文化財虫害研究所 文化財虫害対策研修会 57. 9

- ⑤ 文化財保存修復技術の現状 文化財行政基礎講座 57. 11
- ⑤ 木, 金属, 石等の劣化と防止策(2) 指定文化財展示取扱講習会 57. 11

青木 繁夫(第三修復技術研究室)

- ② 青銅製品の保存修復 MUSEUM No. 381 57. 12
- ② 遺構断面層序の剥ぎ取り保存および貝層断面の保存法
- 特定研究「古文化財」57年度年次報告 58. 3

情報資料部

宮 次男(情報資料部長)

- ② 祖師像と祖師伝絵巻 『日本古寺美術全集』21 集英社 57. 5
- ② 妙心寺の肖像と頂相 『日本古寺美術全集』24 " 57. 9
- ② 日本の変相画 国文学解釈と鑑賞609 57. 10

主要研究業績

- ② 中世人生絵巻 芸術新潮33-11 57. 11
 ② 絵巻の世紀『アートジャパネスク』7 講談社 57. 12
 ② 白描西行物語絵巻 美術研究322 57. 12
 ② *Lotus Sutra Frontispiece Illustrations in the Far East—Focusing on*
Woodblock Editions of the Sung Period

Proceedings of the Fifth International Symposium 57. 20

- ② 神社縁起絵巻 悠久12 58. 1
 ④ シンポジウム「絵解き」 東洋大学 57. 6
 ⑤ 平安・鎌倉時代の仏教絵画 朝日カルチャーセンター 57. 9
 ⑤ お伽草子の世界 日本女子会館 58. 1

江上 綏(主任研究官)

- ② 芦手朗詠集の下絵について 美術研究320 57. 6
 ② 春日御験記台 美術研究320 57. 6
 ② *The Impact of Sung Art Seen in the Nishi-Honganji Manuscript of*
Anthology of Thirty-Six Poets.

Proceedings of the Fifth International Symposium 57. 10

- ④ 荘厳経二例 美術部・情報資料部研究会 57. 6
 ④ Development of Sutra Illustration ブリティッシュ・コロンビア大学 57. 9
 ⑤ Manuscript Ornamentation of Early Mediaeval Japan
 ブリティッシュ・コロンビア大学 57. 9

上野 アキ(文献資料研究室長)

- ② Spread of Painted Female Figures around the Seventh and Eighth
 Centuries Proceedings of the Fifth International Symposium 57. 10
 ④ 中央アジアにおける花鳥表現 国際交流美術史研究会 57. 10
 ⑥ 西域美術—大英博物館のスタイン・コレクション 第2巻 翻訳 講談社 57. 9

関口 正之(写真資料研究室長)

- ② 尾道市持光寺所蔵釈迦八相図について(3) 美術研究321 57. 9
 ④ 愛染明王画像について 金沢文庫研究会 58. 3

米倉 迪夫

調査研究

- ③ 善信上人絵 慕帰絵 親鸞聖人像 本願寺聖人伝絵 本願寺聖人親鸞伝絵 十
界図 融通念仏縁起 善導大師像 法然上人像 遊行上人絵巻 一遍聖絵
『日本古寺美術全集』21 集英社 57. 5

- ④ 為恭と金刀比羅宮蔵為恭旧蔵模本
美術部・情報資料部研究会 57. 10

- ⑥ 大和絵模本の研究
昭和56・57年度科学研究費補助金研究成果報告書 58. 3

鈴木 廣之(写真資料研究室)

- ③ 長恨歌図屏風 国華1052 57. 6
⑤ 屏風絵のながれ 熊谷市立総合図書館主催「屏風絵展」講演 57. 11
⑤ 宗達と又兵衛 一寛永期の絵画—
第16回美術部・情報資料部公開学術講座 57. 12
③ 室町・近世絵画解説「日本史写真集」 山川出版 58. 3

8 その他の研究活動

ほかの機関における講義など

(氏 名)	(機 関 名)	(担当科目)
伊 藤 延 男	東京工業大学工学部非常勤講師	古文化財考古科学第一
柳 沢 孝	慶応義塾大学文学部非常勤講師	美術史特殊
田 村 悦 子	青山学院大学非常勤講師	美術
猪 川 和 子	帝京大学非常勤講師	日本美術史
田 実 栄 子	お茶の水女子大学大学院非常勤講師	服飾史特論Ⅱ
	日本女子大学非常勤講師	服装文化史特論
三 輪 英 夫	成城大学非常勤講師	日本近代美術史・ 日本近代美術史演習
浦 生 郷 昭	東京芸術大学音楽学部非常勤講師	音楽学
羽 田 昶	武蔵野女子大学非常勤講師	中世文学演習
江 本 義 理	東京工業大学工学部非常勤講師	古文化財考古科学第一
	東京芸術大学美術学部非常勤講師	保存科学特講

主要研究業績

馬 潤 久 夫	東京大学工学部非常勤講師	放射化学
新 井 英 夫	東京芸術大学美術学部非常勤講師	保存科学特殊研究
鈴 木 友 也	東京学芸大学美術学部非常勤講師	工芸理論
樋 口 清 治	東京芸術大学美術学部非常勤講師	造形材料としての プラスチックス
中 里 寿 克	武蔵野美術短期大学非常勤講師	日本工芸史
宮 次 男	京都大学文学部非常勤講師	美学・美術史学
上 野 ア キ	東京大学文学部非常勤講師	文化交流特殊講義
関 口 正 之	学習院大学非常勤講師	日本美術史
江 上 綏	埼玉大学教養学部非常勤講師	日本の芸術
鈴 木 廣 之	跡見学園女子大学非常勤講師	日本中近世絵画史演習

Ⅳ 事 業

1 出 版

(1) 美術研究

美術部・情報資料部所属の研究員による美術に関する調査研究の成果を公表するための機関誌で、論文・研究資料・図版解説・美術関係文献の校刊を掲載し、なお所外研究者の寄稿を受けることもある。本誌は美術部の前身である美術研究所開設した間もない昭和7年1月に創刊され、爾来56年度末までに319号が出版された。57年度から季刊発行とし、320号から323号までが下記の内容で刊行された。A4版、各号本文40頁(欧文抄録2頁を含む)、原色図版1、単色図版8。

美術研究 320号(昭和57年6月発行)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 芦手朗詠集の下絵について | 江上 綏…… 1 |
| 親鸞の、特に坂東本『教行信證』の筆蹟について 下 | 田村 悦子……12 |
| 春日御驗記台(図版解説) | 江上 綏……36 |

美術研究 321号(昭和57年9月発行)

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 蘭書『コンストカビネット』と白雲の「和蘭陀銅板絵法」 | 菅野 陽…… 1 |
| 尾道市持光寺所蔵釈迦八相図について(三) | 関口 正之……15 |
| 国沢新九郎の画歴と作品 | 三輪 英夫……25 |
| 武蔵国分寺跡附近出土の観音菩薩立像 | 久野 健……33 |
| 岩橋教章筆鴨図(図版解説) | 三輪 英夫……34 |

美術研究 322号(昭和57年12月発行)

- | | |
|------------|----------|
| 異色ある孔雀明王画像 | 柳澤 孝…… 1 |
| 白描西行物語絵巻 | 宮 次男……16 |

美術研究 323号(昭和58年3月)

- | | |
|----------------|-----------|
| 法華堂根本曼陀羅の構成と表現 | 秋山 光和…… 1 |
| 三十六歌仙絵(書伝為相筆) | 真保 亨……26 |

(2) 日本美術年鑑

毎年1月から12月までの美術界の活動状況を記録するもので、美術界年史、展覧会記録、文献目録、物故者略歴等を収録する。美術部、情報資料部研究員が調査執筆を行い、美術部第二研究室が編集している。B5版、約300頁。本年度は昭和55年の内容をもった昭和56年版(288頁)を刊行した。

日本美術年鑑・昭和56年版(昭和58年3月発行)

昭和55年美術界年史	1
美術展覧会(現代美術・西洋美術)	5
美術展覧会(東洋古美術)	108
美術文献目録(定期刊行物所載)(現代美術・西洋美術)	116
美術文献目録(定期刊行物所載)(東洋古美術)	205
物故者	235

(3) 芸能の科学

芸能の科学 14(芸能調査録IV)

過去約20年にわたって、芸能部が継続的に行った「東大寺修二会」に関する研究調査の成果の一部を「東大寺修二会の構成と所作」(別巻)と題して、昭和57年11月に刊行した。以上を以て東大寺修二会の研究調査録全四巻の刊行を完了した。

別巻には、二七日にわたる行法中、特定の日にのみ勤修される授戒・一徳火・実忠忌・小観音・水取り・内陣涅槃講・灌頂護摩その他の諸作法を収め、460コマの写真と110余の図をも用いて行事の内容を詳述した。なお巻末に全四巻の索引と、東大寺修二会の中軸となる[悔過作法]の変遷に関する考察を付した。

(4) 保存科学

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。本年度は第22号を発行した。

保存科学 第22号(昭和58年3月発行)

事 業

石造遺跡の凍結破壊と樹脂によるその防止効果の実験

——石造文化財の凍結—融解による劣化とその防止法に関する研究(I)

……………福田正己・三浦定俊・西浦忠輝・松岡憲知…… 1

岩石内の水の凍結点降下と弾性波速度変化について

——石造文化財の凍結—融解による劣化とその防止法に関する研究(II)

……………福田正己・松岡憲知……15

シングアラウンド式音速測定法による岩石の凍結—融解破壊の判定

——石造文化財の凍結—融解による劣化とその防止法に関する研究(III)

……………三浦定俊・福田正己・西浦忠輝……21

X線解析写真測定の文化財への応用について——地獄門への応用——

……………呉屋充庸・三浦定俊・金子忠夫・石川陸郎……29

文化財の長期保存に関する研究(第2報)

出土遺物等の保存へのBO-PVAフィルムの応用

……………新井英夫・見城敏子・森 八郎……39

厳島神社大鳥居における海中対策……………新井英夫・森 八郎……47

平安時代漆芸技法資料XI——中尊寺螺鈿沃懸地堂内具……………中 里 寿 克……59

ぬき接合部の強度とその改良(第1報)くさびの材質と強度との関係

〔文化財保存を目的とした木造建築物の構造力学的研究;その1〕

……………西 浦 忠 輝……89

製紙に関する古代技術の研究(II)——打紙に関する研究——

……………増田勝彦・大川昭典……99

史跡虎塚古墳彩色壁画保存に関する調査研究(受託研究報告 第51号)

……………江本義理・門倉武夫・見城敏子・新井英夫… 121

出土書画の修復について……………故宮博物院修復廠漆画組… 147

昭和57年度修復処置概報……………修 復 技 術 部… 153

(5) 国際研究集会プロシーディングス

The 5th International Symposium on the Conservation and Restoration
of Cultural Property—Interregional Influences in East Asian Art History—

(1982)

「東アジアにおける美術交流」を主題とし、美術部・情報資料部担当のもとに開催された国際研究集会(56. 10. 6~10. 9)における 発表論文・質疑応答・総合討議を収めたプロシーディングス(英文)を刊行した。内容は下記の通りである。

BERTHIER, François: The Meditative Bodhisattva Image in China, Korea and Japan

KUNO, Takeshi: East Asian Buddhist Sculpture and the *Henzan*

MATSUBARA, Saburō: The Development and Eastward Diffusion of the Sui Style of Buddhist Sculpture

RIBOUD, Krishna: A Survey of Votive and Ritual Textiles from the Han to T'ang Dynasty

UYENO, Aki: Spread of Painted Female Figures around the Seventh and Eighth Centuries

CHIN, Hong-sup: The Stone Cave Temples in Silla Era

KAWAKAMI, Kei: The *Li-tai-ming-hua-chi* and the Paintings in the Shōsō-in Repository

AKIYAMA, Terukazu: Landscape Representations of the Nara Period and Their Relationship with T'ang Painting—With Special Attention to the Hokkedō-kompon-mandara—

LEDDEROSE, Lothar: P'eng Lai and Jōdo—Some Paradise Compounds in China and Japan—

YANAGISAWA, Taka: A Study of the Painting Style of the Ryōkai Mandala at the Sai-in, Tō-ji—With Special Emphasis on Their Relationship to Late T'ang Painting—

EGAMI, Yasushi: The Impact of Sung Art Seen in the Nishi-Honganji Manuscript of *Anthology of Thirty-Six Poets*

ROSENFELD, John: Shunjōbō Chōgen—Sino-Japanese Hybrid Styles of Sculpture—

MIYA, Tsugio: *Lotus Sutra* Frontispiece Illustrations in the Far East

事 業

—Focusing on Woodblock Editions of the Sung Period

BRINKER, Helmut: Chinsō—Zen Portrait Painting in China and Japan

EBINE, Toshio: Iconographic Problems on the Group of Figure Compositions Titled Lū Tung-pin

STANLEY-BAKER, P. Richard: New Initiatives in Late 15th Century Japanese Ink Painting

AHN, Hwi-Joon: Chinese Influence on Korean Landscape Painting of the Yi Dynasty (1392–1910)

KAMIYA, Eiko: Chinese Textiles Brought to Post-Medieval Japan and Their Influence

KOBAYASHI, Tadashi: A Painting Method Devised by Itō Jakuchū

CAHILL, James: Yosa Buson and Chinese Painting
General Discussions

Plates

2 黒田清輝巡回展

黒田清輝の遺作の多くを所蔵している本研究所は、黒田清輝の功績を記念し併せて地方文化の振興に資するために、昭和52年度からの事業として黒田清輝巡回展を年1回地方において開催してきた。

本年度は特に地元の要請により高松市・高知市の2か所で開催した。

1) 会 場 香川県文化会館

会 期 昭和57年5月1日～昭和57年5月16日

主 催 東京国立文化財研究所・香川県文化会館・香川県教育委員会

開催日数 16日間

入場者数 10,225人

陳列点数 油彩・パステル60点、木炭デッサン50点、写生帖17点、書簡3点、

日記5冊、参考資料若干

図 録 A4判変型112頁、原色版6頁、単色版80頁

- 2) 会 場 高知県立郷土文化会館
会 期 昭和57年 5月22日～昭和57年 6月 6日
主 催 東京国立文化財研究所・高知県立郷土文化会館
開催日数 16日間
入場者数 8,519人
陳列点数 油彩・パステル60点, 木炭デッサン50点, 写生帖17点, 書簡3点,
日記5冊, 参考資料若干
図 録 A 4判変型112頁, 原色版6頁, 単色版80頁

3 公開学術講座

美術部・情報資料部(第16回)

- 日 時 昭和57年12月4日(土) 13:30～16:30
会 場 日本経済新聞社小ホール(9階)
講 演 (1) 宗達と又兵衛 情報資料部写真資料研究室 鈴木 廣之
一寛永期の絵画一
(2) 近代の画卷 美術部第二研究室長 関 千代

芸 能 部

- 日 時 昭和57年12月2日(木) 18:00～20:35
会 場 朝日ホール
テーマ 舞楽の音楽 その技法
講 演 (1) 舞楽の音楽 音楽舞踊研究室長 蒲生 郷昭
(2) 技法の実際 その一 当曲・乱声 音楽舞踊研究室 加納 マリ
(3) 技法の実際 その二 調子 蒲生 郷昭・加納 マリ
実 演 宮内庁楽部楽師10名

4 会 議

文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

事業概要

昭和52年度より国際シンポジウムを毎年開催してきたが、昭和57年度(第6回)はこれを拡大してユネスコとの共同事業により「木造文化財の保存」のテーマで保存科学・修復技術両部の担当で国際シンポジウムを開催し、各国の専門家が研究成果を発表し、討議を行った。そして相互に意見の交換、情報の提供を行った。

講演者は組織委員会により選定され、海外18名、国内7名であった。講演は下記のように6セッションに分けて行われた。日程は次の通りである。

名 称 木造文化財の保存に関する国際研究集会
一第6回文化財の保存修復に関する国際研究集会—
(International Symposium on the Conservation of Wooden Cultural Property)

日 時 昭和57年11月1日(月)～6日(土)

場 所 日本学士院(開会式のみ)

国立婦人教育会館(埼玉県嵐山町)

(題名及び発表者)

11月2日(火)

第I部会(特別講演)

1. Aspect of Japanese Wooden Buildings(日本における木造建造物の様相)
文化財保護審議会委員 関野 克
2. The Conservation of Wood(木の保存)
前ユネスコ文化遺産部事業教育課長 アメリカ H. ダイフク

第II部会

3. Typology of Rural and Domestic Constructions in Wood in Central Europe and in Switzerland(中央ヨーロッパとスイスにおける地方木造民家の類型学)
イコモス木材国際委員会 スイス E. マルタン
4. A Study of Structural Styles of Korean Wooden Constructions and Their Characteristics(韓国における木造建築の構造様式とその特徴)
国立文化財研究所 韓国 張 慶浩
5. Primitive Vernacular Buildings in Australia: A Review(オーストラリア固有の原始建築:総括)
建築家 オーストラリア R. アロム

会 議

6. The Stalk Sculptures of Mexico(メキシコのストーク像について)

国立歴史人類学研究所 メキシコ M. L. O. イトルビード

7. Japanese Representative Woods—HINOKI and SUGI (日本を象徴する木
 桧と杉) 東京大学 杉山 英男

11月3日(水)

第Ⅲ部会

8. Conservation Problems of Wooden Cultural Property in the National
 Museum, New Delhi (ニューデリー国立博物館における木造文化財の保存問題)

ニューデリー国立博物館 インド A. S. ビシュト

9. Preserving a Wooden Building as a Museum Object (博物館展示品として
 の木造建築の保存)

古器物歴史記念物国内委員会 フィンランド P. カイラ

10. Problems on the Conservation of Wooden Structures in Indonesia (イン
 ドネシアにおける木造建造物保存の諸問題)

ボロブドウル復興事業化学考古学部次長 インドネシア デュクト・サントソ

11. Conservation of Wooden Sculpture(木造彫刻の保存) 文化庁 西川杏太郎

第Ⅳ部会

12. The Repair of the Wooden Sculptures(木造彫刻の修理) 美術院 小野寺久幸

13. Restoration of Wooden Buildings (木造建築の修復) 文化庁 鈴木 嘉吉

14. Repairing of Wooden Constructed Cultural Property with Polyurethane
 Resin Adhesive (ポリウレタン樹脂接着剤による木造文化財の修理)

日本大学 堀岡邦典

15. Preservation of Wooden Cultural Properties in Pakistan with Special
 Reference to Pest Control (パキスタンにおける木造文化財の保存—特に虫害
 防除について—) 中央考古学研究所 パキスタン Ch. リーマト・ウラ

16. Mediaeval Wooden Churches in Norway—Maintenance and Conservation
 (ノルウェーにおける中世木造教会—維持と保存)

中央歴史記念物事務所 ノルウェー N. マルスティン

事 業

11月4日(木)

第V部会

17. Teaching Conservation of Wooden Structures (木造建造物保存の教育内容について)

前イクロム所長 イギリス B. M. フィールドン(F. チャールズ代読)

18. Problems of Preservation of Lesser Historic Buildings in England(英国における歴史性希薄な建造物の保存の諸問題)

建築家 イギリス F. チャールズ

19. The Development of Training Programme for Conservators of Wooden Architectural Monuments in Japan (木造文化財建造物保存技術者養成の発展)

文化財建造物保存技術協会 高端 政雄

20. Some Things that a Trainee Should Be Taught About Wood and Wood Preservation (木造文化財保存のための研修プログラム)

国際木材保存研究会 スウェーデン R. コッククロフト

21. Cultural monuments in Bulgaria, made of Wood (ブルガリアにおける木造文化財)

ソフィア国立文化財研究所 ブルガリア V. A. ベレヴ

第VI部会

22. Speech 通商アタシェ ケニヤ大使館 A. N. ワルセ

23. Study of Wood Polychromed Sculpture from 12th Century and Problems of its Restoration (12世紀の彩色木彫像の研究及びその修復の問題点)

歴史記念物研究所 フランス M. ステファナジ

24. Wooden Objects of Nepal (ネパールにおける木造文化財)

考古局 ネパール U. N. サブコタ

25. Three Research Problems (3つの研究問題)

コロンビア大学 アメリカ N. R. ワイス

26. A Project for an International Course on Wooden Conservation Technology (木材保存技術の国際コースの計画)

会 議

中央修復研究所 イタリア P. モーラ

ICCROM イタリア G. トラッカ (H. ダイフク代読)

27. Notes on the paper of Prof. Mora and G. Torraca (モーラ, トラッカ両氏の論文に関する覚書)

コンサルタント オーストリア記念物課 G. トリップ

11月5日(金)

日光視察

11月6日(土)

総合討議 司会 伊藤延男, G. トリップ,

最終報告起草者 H. ダイフク

<参加者>

文化庁及び付属機関, 諸博物館・美術館等職員, 諸大学研究者及び修復技術者等91名。

保存科学部・修復技術部

第12回文化財保存修復研究協議会

日 時 昭和58年3月1日(火)

会 場 本研究所別館会議室

主 題 文化財の紙について

紙は絵, 書など文化財の主たるもので, 最も重要な素材の一つである。吾が国には和紙という優れた材料と伝統的な高度の装幀技術があって文化財の保存修理に大きく貢献してきた。しかるに, 昨今近代の洋紙による文献資料の保存法については新たな問題が大きくなりつつある。これらの諸問題について科学的な対応が不足しているのが現状である。今回は紙の保存修理に関しての問題提起をして, 今後の対応処置について協議しようとするものである。文化財の紙についての保存管理, 修復技法, および劣化現象についてそれぞれの現場からの報告がよせられ, 活発な討議が行われた。

参加者は, 文化庁文化財保護部長, 文化財鑑査官, 美術工芸課長以下記念物課, 美術工芸課, 建造物課, 無形文化民俗文化課の各担当官, 東京国立博物館, 京都国立博

事 業

物館、奈良国立文化財研究所、国立歴史民俗博物館、東京芸術大学、東京大学史料編さん所、宮内庁書陵部、正倉院事務所、国立国会図書館、国立公文書館の関係担当官、および文化財建造物保存技術協会、元興寺文化財研究所、その他修復技術者の出席を得た。

(発表課題、発表者)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 文化財修理における紙の用いられ方 | 国宝修理装潢師連盟 遠藤 隆夫 |
| 2. 古典籍、古文書の保存修理の問題点 | 宮内庁書陵部図書課 森 縣 |
| 3. 紙を素地とする書画の修理をめぐる | 文化庁主任文化財調査官 渡辺 明義 |
| 4. 保存、修復用資材としての和紙製造の問題点 | 美術部主任研究官 増田 勝彦 |
| 5. 紙の褐色斑病について | 保存科学部生物研究室長 新井 英夫 |
| 6. 紙の劣化について | 東京大学農学部助教授 臼田 誠人 |

第11回文化財保存科学懇談会

日 時 昭和58年3月9日(水)

場 所 本研究所別館会議室

文化財の保存と修復に関し、東京国立文化財研究所保存科学部、修復技術部の調査研究が円滑に推進され、文化財保存事業に効果をもたらすことを目的とし、文化庁文化財保護部長、文化財鑑査官、管理課、記念物課、建造物課、美術工芸課、無形文化民俗文化課の課長および担当官の出席を得て、本年度における両部の特別研究、受託研究、一般研究の報告を行い、昭和58年度の両部の調査研究計画を説明し懇談した。なお、次年度からは両部のみならず、美術、芸能、情報資料部の参加を得て懇談するように計画したい。

5 国際・国内交流

美 術 部

柳澤孝第一研究室長は、パリ・ギメ美術館蔵のパーマヤーン・中央アジア・敦煌將來絵画研究のため、フランスに出張した。(57. 5.30～57. 6.14)

さらに、ボストン美術館主催「日本絵画に関するシンポジウム」における研究発表者としてアメリカ合衆国に出張し、ボストン美術館及びメトロポリタン美術館所蔵の日本仏教絵画の調査研究を行った。(57.11. 1～57.11.15)

国際・国内交流

第一研究室増田勝彦研究員は、前年度より引き続き ICCROM (文化財保存修復のための国際センター、イタリア国ローマ市)において、ユネスコ・アソシエイトエクスパートとして、紙本絵画文書修復の技術研修コースを受持った。(56.8.13~57.8.15)

保存科学部

新井英夫生物研究室長は、韓国政府の招請を受け、昭和57年6月20日より7月24日まで韓国文化財管理局文化財研究所において、韓国文化財の生物被害の実態調査ならびに加害生物防除法の共同研究を実施した。

門倉武夫主任研究官は、文部省短期在外研究員として、昭和57年10月10日から12月9日まで、環境汚染が文化財におよぼす影響と防除に関する研究のため、米国(スミソニアン研究所アナリティカルラボラトリー、ニューヨーク大学、サンフランシスコアジア美術館、ビショップ博物館)およびカナダ(カナダ国立文化財研究所)に出張した。

修復技術部

第三修復技術研究室青木繁夫研究員は、昭和57年9月7日から19日迄、中華人民共和国に出張し、敦煌、西安兵馬俑坑、章懷太子墓などの遺構保存の調査を行った。

情報資料部

上野アキ文献資料研究室長は京都国立博物館及び唯是荘において開催された第1回国際交流美術史研究会に出席し、「中央アジアにおける花鳥表現」と題して研究発表を行った。(57.10.21~10.28)

江上綏主任研究官は、ブリティッシュ・コロンビア大学における「日本研究のための大平記念プログラム」の一部をなす経巻装飾画に関する共同研究のため、招聘研究員としてカナダに出張した。(57.9.18~9.29)

関口正之写真資料研究室長と同室鈴木廣之研究員は、米国ボストン美術館主催の「日本絵画に関するシンポジウム」に出席し、あわせて同館所蔵の日本絵画を調査した。(57.11.1~11.10関口, 57.11.1~11.11鈴木)

写真資料研究室鈴木廣之研究員は中華人民共和国に出張し、北京・上海・蘇州の博物館の中国絵画作品の見学・調査を行った。(57.10.1~10.14)

事業

海外研究者の来訪

S.57.4.1~S.58.3.31

国名	所 属	氏 名
中 国	敦煌文物研究所長	段 文 傑
"	" 所員	史 肇 湘
"	" "	賀 世 哲
"	" "	閔 友 惠
"	" 通訳	巨 東 梅
ア メ リ カ	インディアナ大学	C. オスカー
中 国	中国文物工作者友好訪問団団長	任 賀 斌
"	" 秘書長	郭 芳 力
"	" 団員	史 樹 青
"	" 通訳	田 増 華
フ ィ リ ピ ン	ソリタリダード画廊	E. J. フォセ
中 国	故宮博物院副院長	楊 伯 達
オ ラ ン ダ	生物学・考古学研究所	H. T. ウォーターボルク
中 華 民 国	行政院文化建設委員会所長	楊 崇 森
"	" 科長	莊 芳 榮
中 国	中国科学院地球化学研究所(副所長)	欧 陽 自 道
"	中国商業部生漆技術考察組	李 子 科
"	"	楊 承 梓
"	"	杜 子 民
"	"	張 繼 明
"	"	曹 金 桂
ア メ リ カ	バージニア工科大学	D. N. S. ホン
フ ラ ン ス	フランス・アカデミー(ローマ)	N. ラパネル
"	バロック美術館(ローマ)	M. レーニ
韓 国	文化財管理局宮園管理課長	金 光 洛
"	" 補修課長	禹 鍾 善
イ ン ド	フォード財団企画委員	P. サンドラ
フィンランド	国立職業訓練校文化財保護コース	L. ヴィクストロム
フィンランド	文化財国内委員会	P. カイラ
中 華 民 国	行政院文化建設委員会副主任委員	孔 秋 泉
イ ギ リ ス	英国国立図書館	M. バーナード
カ ナ ダ	カナダ国立博物館	G. F. マクドナルド
ア メ リ カ	ロサンゼルス州立美術館	V. ブルースヒル
"	エイチソンアンドウェイターズ美術品修理所	R. エイチソン
"	ロサンゼルス州立美術館	L. M. クルース
"	メトロポリタン美術館	B. フィスタ
イ ギ リ ス	アトランティス・ペーパー(株)	D. ブラウン
"	"	S. ヴェルフ
"	インド関係公文書館	F. マーシュ
オーストラリア	ニューサウス・ウェールズ美術館	R. デヴィ
"	"	F. デヴィ
中 国	中国政府文化官員代表団団長	J. 谷
"	" 団員	穆 小 林
タ イ	バンコク国立博物館	W. ラーシビータック

招へい研究員

昭和53年度より招へい研究員の制度が設けられ、本年度は国外2名、国内2名の研究員に研究が委嘱され、下記のように共同研究が行われた。

1) デュクト・サントソ(ボロブドール復興事業化学考古学部次長)

共同研究課題 木造文化財保存の研究
研究代表者 保存科学部長 江本 義理
委嘱期間 57年11月1日～11月30日

2) パヌー・カイラ(古器物歴史記念物国内委員会建築家)

共同研究課題 木造文化財建造物保存の研究
研究代表者 修復技術部長 鈴木 友也
委嘱期間 57年11月1日～12月6日

3) 石田 泰弘(福岡市美術館学芸課主任)

共同研究課題 近代美術研究についての文献調査
研究代表者 美術部長 真保 亨
委嘱期間 58年2月21日～3月28日

4) 呉屋 充庸(群馬工業高等専門学校機械工学科教授)

共同研究課題 X線解析写真測量の文化財に関する応用
研究代表者 保存科学部長 江本 義理
委嘱期間 58年3月1日～3月31日

職員の海外出張及び研修旅行

①渡航先 ②目的 ③期間 ④旅費の出途

柳澤 孝

① フランス

② フランス所在パーミヤーン、中央アジア、敦煌将来絵画の調査研究

③ 57.5.30～57.6.14

④ 自費

事業

新井 英夫

- ① 韓国
- ② 韓国における文化財の生物被害とその防除法に関する調査研究
- ③ 57.6.20～57.7.24
- ④ 韓国政府

青木 繁夫

- ① 中華人民共和国
- ② 中国における遺跡・遺構保存の調査
- ③ 57.9.7～57.9.19
- ④ 自費

江上 綏

- ① カナダ
- ② ブリティッシュ・コロンビア大学における経巻装飾画に関する共同研究
- ③ 57.9.18～57.9.29
- ④ ブリティッシュ・コロンビア大学

鈴木 廣之

- ① 中華人民共和国(北京・上海)
- ② 中国絵画の調査および日本近世絵画と中国画の影響関係についての調査研究
- ③ 57.10.1～57.10.14
- ④ 自費

門倉 武夫

- ① アメリカ、カナダ
- ② 環境汚染が文化財に及ぼす影響と防除に関する研究
- ③ 57.10.10～57.12.9
- ④ 文部省在外研究員旅費

柳沢 孝

- ① アメリカ
- ② ボストン美術館主催「日本絵画のシンポジウム」出席と在米仏教絵画の調査
- ③ 57.11.1～57.11.15

国際・国内交流

④ ボストン美術館

関口 正之

① アメリカ

② ボストン美術館主催「日本絵画のシンポジウム」出席と在米日本仏画の調査

③ 57. 11. 1～57. 11. 10

④ ボストン美術館

鈴木 廣之

① アメリカ

② ボストン美術館主催「日本絵画のシンポジウム」出席と在米近世絵画作品の調査

③ 57. 11. 1～57. 11. 11

④ ボストン美術館

V 研究施設・設備

1 蔵 書

美術関係図書

日本・東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全般にわたる研究書を中心に、関連図書、各種叢書、辞典類など漢書(36,700)、洋書(3,940)計40,640冊のほか、各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書、美術関係雑誌、紀要類、売立目録、展覧会目録などを所蔵し、部内外及び研究所外の研究者の利用に供している。

芸能関係図書

雅楽・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸、その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書6,994冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説などの雑誌、それに丸本・謡本などの台本も収集している。

保存科学・修復技術関係図書

古来の伝統的生産及び工芸技術書、技術史、又は数少ないそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書、及び化学・物理学・生物学部門の保存科学に関連ある和洋書を合わせて2,335冊を所蔵している。

過去3年間における取書数と総計は次表のとおりである。

区 分	美術関係		芸能関係		保存科学・修復技術関係		計
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	
55 年 席	3483冊	53冊	844冊	18冊	19冊	20冊	4,437冊
56 年 度	529 "	41 "	280 "	4 "	52 "	25 "	931 "
57 年 度	822 "	39 "	438 "	0 "	26 "	24 "	1,349 "
総 数	36700 "	3940 "	6929 "	65 "	1479 "	906 "	50,019 "

2 出 版 物

美術部・情報資料部

(1) 美術研究

昭和7年より同58年3月までに通算323号を刊行した。

(2) 日本美術年鑑

昭和11年創刊。毎年1冊(ただし昭和19～21, 同22～26, 同49～50年は各合冊)出版し, 昭和58年3月までに38冊を刊行した。

(3) その他の出版物

支那古版図録	(美術研究資料第1輯)	昭和7
吉備大臣入唐絵詞	(美術研究資料第2輯)	昭和9
徽宗摹張萱搗練圖	(美術研究資料第3輯)	昭和10
鳳凰堂雲中供養仏	(美術研究資料第4輯)	昭和11
桃山時代金碧障壁画	(美術研究資料第5輯)	昭和12
富貴寺壁画	(美術研究資料第6輯)	昭和13
印度及南部アジア美術資料	(美術研究資料第7輯)	昭和14
光悦色紙帖	(美術研究資料第8輯)	昭和14
菱田春草	(美術研究資料第9輯)	昭和15
能恵法師絵詞	(美術研究資料第10輯)	昭和15
宮素然筆明妃出塞図巻	(美術研究資料第11輯)	昭和16
日本美術資料	第1輯	昭和13
日本美術資料	第2輯	昭和14
日本美術資料	第3輯	昭和15
日本美術資料	第4輯	昭和16
日本美術資料	第5輯	昭和17
近代日本美術資料	第1輯	昭和23

研究施設・設備

近代日本美術資料	第2輯	昭和24
近代日本美術資料	第3輯	昭和26
墨跡資料集	第1輯	昭和24
墨跡資料集	第2輯	昭和24
墨跡資料集	第3輯	昭和26
源氏物語絵巻		昭和24
黒田清輝素描集		昭和24
栄山寺八角堂		昭和25
栄山寺八角堂の研究		昭和26
法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究		昭和28
黒田清輝作品集		昭和29
高雄曼荼羅		昭和41
明治美術基礎資料集		昭和50
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで	昭和16
東洋美術文献目録続編	昭和11年～同20年	昭和23
東洋古美術文献目録	昭和21年～同25年	昭和29
美術研究索引	第1号～第100号	昭和16
美術研究総目録	第1号～第230号	昭和16
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで(再刊)	昭和42
日本東洋古美術文献目録	昭和11年～同40年	昭和44

ほかに科学研究費補助金(研究成果刊行費)の交付を受け、又は本研究所の監修で刊行された図書は次のとおりである。

光学的方法による古美術品の研究

東京国立文化財研究所光学研究班編	吉川弘文館	昭和30
梁楷 美術研究所編	便利堂	昭和32
醍醐寺五重塔の壁画 高田 修編	吉川弘文館	昭和34
平安時代世俗画の研究 秋山光和著	吉川弘文館	昭和39
近代日本美術の研究 隈元謙次郎著	大蔵省印刷局	昭和39
黒田清輝 隈元謙次郎著	日本経済新聞社	昭和41

出 版 物

扇面法華經	秋山 光和 柳沢 孝著 鈴木 敬三	鹿島出版会	昭和47
金字宝塔曼陀羅	宮 次男著	吉川弘文館	昭和50
黒田清輝素描集	東京国立文化財研究所編	日動出版	昭和57

芸 能 部

標準日本舞踊譜		創芸社	昭和35
音盤目録 I	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和41
改訂 標準日本舞踊譜		創思社	昭和41
芸能の科学 1	—芸能資料集 I 四世鶴屋南北作者年表		昭和42
芸能の科学 2	—芸能資料集 II 鮫の神楽台本集成		昭和42
音盤目録 II	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和46
東大寺修二会 観音悔過（お水取り）			
	東京国立文化財研究所芸能部監修	日本ビクター	昭和46
芸能の科学 3	—芸能論考 I		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和47
芸能の科学 4	—芸能資料集 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和48
芸能の科学 5	—芸能論考 II		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和49
芸能の科学 6	—芸能調査録 I 「東大寺修二会の構成と所作」(上)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和50
芸能の科学 7	—芸能調査録 II 「東大寺修二会の構成と所作」(中)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和52
芸能の科学 8	—芸能論考 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和52
芸能の科学 9	—芸能論考 IV		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和53
音盤目録 III	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和53

研究施設・設備

芸能の科学10 —芸能論考V

東京国立文化財研究所芸能部編 昭和54

芸能の科学11 —芸能論考VI

東京国立文化財研究所芸能部編 昭和55

芸能の科学12 —芸能調査録Ⅲ「東大寺修二会の構成と所作」(下)

東京国立文化財研究所芸能部編 平凡社 昭和55

芸能の科学13 —芸能調査録Ⅳ「東大寺修二会の構成と所作」(別)

東京国立文化財研究所芸能部編 平凡社 昭和57

芸能の科学14 —芸能論考Ⅶ

東京国立文化財研究所芸能部編 昭和57

保存科学部・修復技術部

(1) 保存科学

昭和39年3月創刊になる保存科学部・修復技術部の機関誌で、年1回の刊行により昭和58年3月迄に22号を刊行した。

(2) 受託研究報告 重要文化財円成寺本堂内陣彩色剥落どめ他18件 昭和35～昭和42

(3) 表具の科学(特別研究・軸装等の保存及び修復技術に関する科学的研究報告書)

昭和53

国際研究集会報告書

Proceedings International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property.

The 1st International Symposium

Nov. 24-28, 1977, Tokyo, Nara and Kyoto, Japan

—Conservation of Wood— (1978)

The 2nd International Symposium

Nov. 27-30, 1978, Tokyo and Tsukuba, Japan

—Cultural Property and Analytical Chemistry— (1979)

The 3rd International Symposium

Nov. 26-29, 1979, Tokyo, Japan

—Conservation of Far Eastern Art Objects— (1980)

The 4th International Symposium

August, 6-9, 1980, Tokyo, Japan

—Preservation and Development of the Traditional Performing
Arts— (1981)

3 資 料

美術関係資料

実物よりの直接撮影による写真を含む写真資料の作成整理と、購入写真、複写写真による補足整備に加えて、印刷物中の図版をもおさめるという方式で、当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全域にわたり、それぞれ絵画、書蹟、彫刻、工芸、建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ24万点、原板保有量はほぼ3分の1にあたり、別にマイクロ・フィルム255巻がある。写真資料のほか、拓本、作家伝記資料、落款印章資料、近代・現代作家・団体・作品資料、資料スクラップ等と、図書カード、図版カード、各種索引類など多数。

芸能関係資料

レコード・録音テープ・写真(8ミリ・16ミリシネを含む)等による芸能資料を多数そなえている。レコードには、毎年各製作会社から発売される伝統芸能関係レコードのほか、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは、明治・大正・昭和三代にわたって発売された各種邦楽レコードを網羅したもので、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ及び写真は、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので、演奏法の解析を中心とした写真・テープ、あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。種別による所蔵数は次のとおりである。

研究施設・設備

区 分	レコード	録音テープ		シネフィルム		写 真	ビデオ テープ
		従来方式	PCM方式	8 mm	16mm		
昭和55年度 までの累計	6,491枚	2,336本	0本	198本	3本	多 数	0本
昭和56年度	346枚	50本	0本	0本	0本	多 数	40本
昭和57年度	95枚	64本	40本	0本	1本	多 数	40本
計	6,932枚	2,450本	40本	198本	4本	多 数	80本

4 機器・設備

美術部・情報資料部

機 器

1. X線透過撮影装置

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 可搬式ソフテックス装置 (J型) | 1式 |
| (2) 可搬式ソフテックス装置 (新J型) | 1式 |
| (3) 携帯用ソフテックス装置 (E型) | 1式 |

2. 紫外線照射装置

- | | |
|------------------------------------|----|
| (1) 可搬式照射装置 (フィリップス紫外線ランプ及び専用トランス) | 2台 |
| (2) 携帯用紫外線検査器 | 1台 |

3. 顕微鏡装置

- | | |
|--|----|
| (1) 双眼実体顕微鏡及び写真装置 | 1式 |
| (2) 新型双眼実体顕微鏡及びカラー顕微鏡写真同時撮影装置 (可動支持台及び携帯用スタンド) | 1式 |
| (3) 検査顕微鏡用側視鏡ユニット・モノフォト装置 | 1式 |
| (4) 比較顕微鏡Ⅲ型 | 1式 |

4. 赤外線テレビ関係設備

- | | |
|-----------|----|
| (1) 移動式架台 | 1式 |
|-----------|----|

機器・設備

- (2) テレビカメラ (付ライト, ズームレンズ) 1 式
- (3) ビデオ装置 1 式
- (4) モニターテレビ 2 台
- (5) 高解像度モニターテレビ 1 台
5. マイクロ写真関係設備
- (1) マイクロ写真撮影装置 (付自動現像機, プリンター, 引伸機・乾燥機等) 1 式
- (2) ポータブル・マイクロ写真撮影装置 1 式
- (3) マイクロ閲読機 (ルーモ社製) 3 台
- (4) リーダープリンター 1 台
6. デアスコープ (視聴覚教育装置) 1 台
7. カメラ類
- (1) リンホフカルダン 1 台
- (2) リンホフテヒニカ 3 台
- (3) コメット・ストロボ CP-1200 DX 1 台
- (4) 工業用ファイバースコープ 1 式
8. 引伸機
- (1) オメガ (4×5) 2 台
- (2) フジ A690 1 台
- (3) フジ S69 1 台
- (4) オメガ (5×7) 1 台
9. 複写台
- (1) コピースタンド (1300) 1 台
- (2) スライドコピア MD 400 1 台
10. 乾燥機 FC オート (全紙) 1 台
11. ドライマウント シールコマーシャル 210M 1 台
- ドライマウント シールコマーシャル 70 1 台
12. マルチカードセレクト (HAC 841 S 型) 1 式
13. 複写機 ハイカード L 1 台

研究施設・設備

14. 製本機

- | | |
|---------------------------|----|
| (1) サーマバインド T220 | 1台 |
| (2) ホリゾン BQ-18 L | 1台 |
| (3) 電動断裁機 PC-45 | 1台 |
| 15. プロジェクター キャビン AF-2500 | 1台 |
| 16. タイプライター オリベッティ ET-221 | 1台 |

芸能部

機 器

1. 分析機器

- | | |
|----------------|----|
| (1) ビッチレコーダー | 1台 |
| (2) メログラフ BT 型 | 1式 |

2. オーディオ関係機器

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) レコードプレーヤー | 8台 |
| (2) テレビ | 2台 |
| (3) テープレコーダー | 18台 |
| (4) ビデオテープレコーダー | 4台 |
| (5) ステレオ音声調整卓 | 1台 |
| (6) スピーカー | 4個 |
| (7) テープダビングシステム | 1式 |
| (8) 屋外取材用音声機器システム | 1式 |
| (9) P. C. M. 音響システム | 1式 |

3. 撮影・影写機器

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 16 mm撮影機 | 1台 |
| (2) 16 mm映写機 | 1台 |
| (3) 8 mm撮影機 | 4台 |
| (4) 8 mm映写機 | 2台 |
| (5) 35 mm写真機 | 6台 |
| (6) 35 mmマイクロフィルム解読装置 | 1台 |

機器・設備

- (7) 16 mmマイクロフィルム解説・複写装置 1台
- (8) 16 mmマイクロ写真機 1台
- (9) 16 mmシネフィルム分析装置 1台
- (10) リーダー・プリンター 1台
- (11) ビデオカメラ 2台
- 4. 照明器具
 - (1) スタジオ用照明器具 1式
- 5. 楽 器
 - (1) ピアノ 1台
 - (2) 箏 1面

保存科学部・修復技術部

1. 機 器

- (1) サンシャインウェザーメーター（劣化促進試験機） 1台
- (2) 万能試験機（島津，オートグラフ，インストロン型，10トン） 1式
- (3) 回折格子光照射器 1台
- (4) 紙耐揉強度試験機 1台
- (5) 衝撃試験機（シャルピー，アイゾット兼用） 1台
- (6) 紙耐折試験機（MIT） 1台
- (7) 凍結融解試験機（コイトトロソ HNL-T 特殊型） 1台
- (8) シュミットハンマー（圧縮強度測定用） 1台

2. 顕微鏡装置

- (1) 金属顕微鏡 1台
- (2) 生物顕微鏡 1台
- (3) 表面アラサ顕微鏡 1台
- (4) 万能顕微鏡 1式
- (5) 走査型電子顕微鏡（JSM-50 A型） 1式

3. 分析装置

- (1) ガスクロマトグラフ（ガス分析，水素イオン化検出器・熱伝導検出器・熱分解装置付） 1式

研究施設・設備

(2)	ポーターガスアナライザー (MIRAN-1型)	1 式
(3)	回折格子自記赤外分光光度計	1 台
(4)	〃 赤外顕微鏡	1 台
(5)	自動記録式示差熱天秤	1 式
(6)	炭素・水素・窒素分析計	1 式
(7)	光電分光光度計 (自記)	1 台
(8)	螢光 X 線分析装置 (標準型及び非破壊用大型試料台つき)	1 式
(9)	可搬式螢光線分析装置 (現場可搬用)	1 式
(10)	X 線回折装置及びデバイシェラーカメラ, ラウエカメラ (結晶同定)	1 式
(11)	発光分光分析装置 (MI 型) (高圧整流スパーク, 直流アーク)	1 式
(12)	カラム用循環恒温槽	1 台
(13)	超音波洗浄機	1 台
(14)	細管式等速電気泳動装置	1 台
(15)	赤外分光光度計	1 台
(16)	固体用質量分析計	1 式
(17)	原子吸光光度計	1 式

4. 非破壊検査装置

(1)	工業用 X 線発生装置 (60 KVP, 4 mA)	1 式
(2)	工業用 X 線発生装置 (200 KVP, 8 mA)	1 台
(3)	Cs-134 γ 線線源 (透視用 2 Ci)	1 個
(4)	赤外線 TV カメラ装置	1 式
(5)	超音波探傷器 UFC-201 型	1 台
(6)	超音波式コンクリート試験器	1 台
(7)	〃 厚み測定器	1 台
(8)	シングア라운드式音速測定装置 UVM-2	1 式

5. 物性測定機

(1)	粒度分布測定装置	1 式
(2)	熱膨張計	1 台
(3)	レオメーター (粘性試験用)	1 式

機器・設備

- | | |
|--------------------------|----|
| (4) 直読式動的粘弾性測定器 | 1台 |
| (5) 真空蒸着装置(表面薄膜形成用) | 1台 |
| (6) 篩振盪機(標準フルイ付) | 1台 |
| (7) 明石ロックウエル硬度計 ARK-B | 1台 |
| (8) ゴニオメーター(接触角測定機) | 1台 |
| (9) ゼーター電位測定装置 | 1式 |
| (10) PHメーター | 1台 |
| (11) 透水試験機 | 1台 |
| (12) 表面張力測定機 | 1台 |
| (13) 万能デジタル計測システム(ユーカム8) | 1式 |
| (14) フィールドメモリー | 1台 |

6. 照明及び温湿度装置

- | | |
|-----------------------------|----|
| (1) 恒温恒湿室(5~40°C, 40~90%) | 1台 |
| (2) 自記分光放射計(光源の分光測定) | 1台 |
| (3) ライトガイドカラーメーター(色彩測定) | 1台 |
| (4) 恒温恒湿槽(0°~40°C 20~90%) | 1台 |
| (5) 風速計(熱式)AM 01 | 1台 |
| (6) サーマダック II | 1台 |
| (7) 恒温恒湿槽(-30°~80°C, 5~95%) | 2台 |
| (8) SM カラーコンピューター | 1台 |
| (9) 卓上型恒温恒湿器 | 1台 |
| (10) 紫外線強度計 | 1台 |

7. 殺虫殺菌装置

- | | |
|-------------------|----|
| (1) 滅菌装置 | 2台 |
| (2) 滅菌殺虫装置 | 1台 |
| (3) ガス滅菌装置GS-15特型 | 1台 |

8. 生物実験用器械

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 超低温槽(-50°C) | 1台 |
| (2) 冷却遠心機(-20°~5°C) | 1台 |

研究施設・設備

③	ピンホールサンプラー	（東京大学理学部）	1台
9.	環境汚染測定装置	（東京大学理学部）	
①	粉塵計（記録装置付）	（東京大学理学部）	1式
②	悪臭分析装置	（東京大学理学部）	1式
10.	修復処置装置	（東京大学理学部）	
①	真空凍結乾燥装置	（東京大学理学部）	1式
②	減圧含浸装置	（東京大学理学部）	1式
③	エヤブラッシュ装置	（東京大学理学部）	1式
④	合成樹脂圧入装置	（東京大学理学部）	1式
⑤	水浸木材用含浸装置	（東京大学理学部）	1式
⑥	熱風恒温乾燥機	（東京大学理学部）	1台
⑦	装演用備品	（東京大学理学部）	1式
⑧	万能木工機	（東京大学理学部）	1台
⑨	澱 嵌 機	（東京大学理学部）	1台
⑩	超音波発生装置	（東京大学理学部）	1台
⑪	蒸 溜 器	（東京大学理学部）	1台
11.	情報処理装置	（東京大学理学部）	
①	PC-8800システム	（東京大学理学部）	1式
②	デジタルマルチメーター	（東京大学理学部）	1式
③	ユニバーサルカウンター	（東京大学理学部）	1台
④	ADコンバーター	（東京大学理学部）	1式

5 黒田記念室

黒田記念室は、本研究所の創立者故帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であって、黒田清輝の油絵・素描・写生帳等を収蔵している。

創立当時主として黒田家から寄贈されたものは、油絵125点、素描170点、写生帳等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは、「知感情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるる日影」・「温室花壇」等である。

観 覧 室

観覧の日時は毎週木曜日午後1時から同4時までとし、観覧を停止する日は次の通りとする。

祝 日

開所記念日（10月18日）

年末年始（12月25日から翌年1月6日まで）

夏期（7月21日から8月31日まで）

本研究所において必要があるときは、前条の日時を随時変更することがある。ただし、この場合は予め掲示する。

昭和52年度より、黒田清輝作品の地方巡回展を行い、本年度は香川県文化会館と高知県立郷土文化会館で開催した。

6 観 覧 室

本研究所情報資料部の図書写真及び各種研究資料は主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等の利用に供している。年間の観覧者数は、約500名である。

東京国立文化財研究所

昭和57年度の研究報告書（昭和57年度）

昭和57年度

昭和57年度

（昭和57年度）

（昭和57年度）

（昭和57年度）

（昭和57年度）

（昭和57年度）

（昭和57年度）

（昭和57年度）

東京国立文化財研究所

昭和58年度の研究報告書（昭和58年度）

昭和58年度の研究報告書（昭和58年度）

東京国立文化財研究所要覧（昭和57年度）

昭和58年 8 月25日発行

発行所 東京国立文化財研究所

〒110 東京都台東区上野公園13-27

電話（823）2241（代）